

# 名古屋芸術大学 後援会報



Vol. **80**  
2026.3.31発行

## CONTENTS

■ 目次	1
■ 会長ご挨拶	2
■ 2025年度 第2回 / 第3回学生支援	3
■ 100円朝食への支援	4
■ 一日研修レポート：福井県立年縞博物館を訪ねて	5
■ 2025年度芸大祭参加のご報告	6
■ 名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ第44回定期演奏会 鑑賞のご報告	7
■ 2025年度名古屋芸術大学芸大祭活動報告	8
■ 学務部報告 学生の「声」から見えてきたこと	9
■ 学務部報告 学生の未来を支えるキャリア支援	11
■ [就活最前線] 私が就職内定をもらうまで	13
■ 第6回後援会賞授与式	16
■ 第53回名古屋芸術大学卒業・修了制作展 優秀賞 最優秀賞 / 北名古屋市長賞 / 教育委員会賞 / 企業賞	17
■ 2025年度 第29回ブライトン大学賞授与式	18
■ 皆さん受賞おめでとうございます	19
■ 修了公演・卒業公演・卒業制作展・修了制作展	21
■ 国際交流事業について	25
■ 後援会補助公開講座	27
■ トピックス・ピックアップ	29
■ 「名古屋芸大サポーターズクラブ」便り	32
■ 親の想い	33
■ 子の想い	34
■ 名古屋芸術大学後援会会則	35
■ 公認サークル「壁の華」・「せせらぎ合唱団」	36
■ 表紙解説・後援会で一緒に活動しませんか・編集後記	37
■ 後援会賛助会員紹介	38

**【表紙デザイン】** 副会長(事業委員長) 山下 文彰



卒業生の皆さま、このたびはご卒業、誠におめでとうございます。後援会を代表し、心よりお祝い申し上げます。

今年の世界情勢を振り返りますと、国際情勢の不安定化や社会構造の急速な変化など、先行きの見えにくい時代が続いております。そのような中で学生生活を送り、学びを修められた皆さまは、決して平坦ではない環境の中で、自ら考え、行動する力を培ってこられたことと思います。

大学での学びは、知識や技術だけでなく、多様な価値観に触れ、人と関わり、時に悩みながらも前に進む力を育んでくれたはずです。そこで築き上げた経験や人とのつながりは、これから社会に出てからも、皆さまを支える大きな財産となることでしょう。

どうかこれからは、そのたくましさを胸に、同時に他者を思いやる心を忘れず、それぞれの道でご活躍ください。変化の激しい時代だからこそ、皆さま一人ひとりの誠実さや優しさが、社会をより良い方向へ導いてくれると信じております。

名古屋芸術大学後援会といたしましても、時代の変化を真摯に受け止め、現状に甘んずることなく、より良い支援の在り方を模索しながら改善に努めてまいります。卒業生の皆さまが誇りを持てる母校であり続けられるよう、今後も大学とともに歩んでまいります。

結びに、皆さまの前途に幸多からんことを祈念し、挨拶とさせていただきます。

## 【特集 1】 2025年度 第 2 回 / 第 3 回学生支援

9月23日（火・祝）と11月26日（水）に食料品と生理用品の配布事業を行いました。その状況を、それぞれご報告いたします。

本年度は、学生の生活を支える取り組みとして、後援会と保護者ボランティア(サポートチーム)の皆さまと共に、計3回の物品配布を実施いたしました。学生たちの声に耳を傾けながら、より実用的で喜ばれる内容となるよう工夫を重ねてまいりました。ここでは、9月と11月それぞれの活動について順にご紹介いたします。

### ■ 9月23日（火・祝）に実施した支援活動

例年、学生支援の物品配布は6月と11月の2回でしたが、今年は後援会理事の「もっと学生を応援したい」という強い思いと、学生からの好評の声を受けて、急遽9月に追加で開催することとなりました。当日は、理事と保護者で構成されるサポートチーム、合わせて30名がボランティアとして参加しました。

#### 【配布した品物】

##### 食料品 (600 セット)

パスタ、パスタソース、クロワッサン、ゼリー、

フリーズドライスープ、お菓子、**生理用品 (360 個)**

これまで主に使用していた「パックご飯」は、近年の米価高騰もあり、学生から寄せられていた「パスタやパンもあるとうれしい」という声に応える形で品目を見直しました。主食として使いやすいパスタ類や、手軽に食べられるパン類など、より生活に取り入れやすい内容に変更しています。

#### 【当日の様子】

暑さが和らぎ、秋風が心地よい中で活動が始まりました。開始を通常より1時間半遅らせた

こともあり、開始15分前にはすでに長い列ができていました。配布品を受け取った学生が「わぁ、これうれしい！」と声を上げる場面もあり、私たちも自然と笑顔になるひとときでした。

準備した品物は約1時間で配布終了し、多くの学生に喜んでもらうことができました。

#### 【学生とのつながりを意識した取り組み】

配布の袋には、後援会の活動を紹介する簡単な案内資料と、大学保健室が10月に行うイベントのお知らせを同封しました。私たち後援会は、学生と直接顔を合わせる機会を大切に、大学の各部署と協力しながら、学生支援の環境をより良いものにしていきたいと考えています。

### ■ 11月26日（水）に実施した支援活動

続いて11月には、本来の年間スケジュールどおり、3回目の配布を行いました。

今回も後援会理事とサポートチームの皆さま、総勢25名が参加しました。

#### 【配布した品物】

季節や学生の生活リズムを踏まえ、次の内容を準備しました。

##### 食料品 (600 セット)

パスタ、パスタソース、スープ春雨、クロワッサン、ゼリー、カップ

##### 生理用品 (360 セット)

寒さが増す時期であったため、「温かいものがほしい」という学生の声を受け、手軽に食べられるカップスープ類を追加しました。また、「朝食を抜く学生が多い」という心配の声が後援会内で以前から出ていたことから、忙しい朝でも食べられるスープ春雨を取り入れたところ、大変好評でした。



## 【当日の様子】

穏やかな天気の中、事前に大学から学生へ広報していただいたこともあり、開始前から多くの学生が集まってくださいました。

受け取った学生からは「本当に助かります」「温かいものがうれしいです」といった声が多く寄せられ、保護者一同、大きな励みになりました。こちらも9月同様、約1時間で配布終了となりました。



## 【学生との交流と案内活動】

11月の配布では、大学保健室が12月に開催するイベント案内を同封したほか、後援会が運営協力している「100円朝食」についての周知も行いました。

大学の各部署と連携しながら、学生が少しでも安心して過ごせるよう、引き続き取り組みを広げてまいります。

## ■ おわりに

学生支援活動は、大学関係者の皆さまのご理解とご協力のおかげで、滞りなく実施することができました。心より感謝申し上げます。

後援会としては、これからも学生の皆さんの生活と学びを支えるために、できる限りのサポートを続けてまいります。

副会長（事業委員長） 山下 文彰

## 100円朝食への支援

名古屋芸術大学学務部が主催する「100円朝食を食べよう！」が好評につき2025年度も開催されました。

## ＜目的＞

学生の経済的支援のほか、朝のイベント実施により早起きを促進し、勉学や楽器練習、制作活動、自治活動に当てる時間を増大させ、学生生活の充実化を図る

## ◆ 1期目

10月22日(水)～24日(金) 3日間  
実施時間／8:30～11:00

## ◆ 2期目

12月3日(水)～5日(金)  
12月9日(火)～12日(金)  
12月16日(火)～18日(木) 計10日間  
実施時間／9:30～11:00、14:00～16:00

毎回、学生の皆様の意見に耳を傾け改善を続け、学生の皆様に定着しているようです。

後援会の学生支援（食料品と生理用品の配布事業）にて以下チラシを配布するなどの支援をさせていただきました。今後も学務部と連携しこうした活動の支援をしていきます。



「物価高に対する食の支援事業」独立行政法人日本学生支援機構が主催する学生生活を送るための食費（現物支給を含む）を支援する事業に本学が採用され、食材費の半額の支援を受けることができました。

独立行政法人日本学生支援機構  
<https://www.jasso.go.jp/kihukin/shien/index.html>

会長 高木 敏光

## 【特集 2】

### 一日研修レポート：福井県立年縞博物館を訪ねて

～芸術を学ぶ学生の創造性を高める「空間の力」と「歴史の雄大さ」の学び～

視察日：2025年10月4日（土）

参加者：役員（理事・顧問）計21名

名古屋芸術大学後援会では、学生の皆さんの学びを効果的に支えていくことを目的に、毎年役員による「一日研修」を実施しています。今年度は、建物の工夫や展示の魅せ方（空間デザイン）が国内トップレベルと評価される「福井県立年縞博物館」を視察いたしました。

この博物館は、湖の底に1年ごとに積もった、世界的にも貴重な「しま模様の地層」（年縞）を収蔵しています。その建築と空間は、芸術を学ぶ本学学生の皆さんの学習意欲や創造性を刺激する「模範的な空間」であると感じました。

#### 【地域に溶け込み、自然を活かす建築の知恵】

建物は、日本の伝統家屋を思わせる大きな切妻屋根を採用し、周囲の里山の景色に優しく溶け込むよう設計されています。特に、水害対策のため1階が柱だけの吹き抜け（ピロティ）となり、建物が空中に浮かんでいるように見えることで、奥の自然の風景を遮らない「自然への配慮の姿勢」が印象的でした。内装に福井県産の木材と鉄骨を組み合わせ、温かみと構造美を両立させている点は、素材の力を引き出す良い手本となるでしょう。

#### 【7万年の歴史を肌で感じる展示演出】

展示の中心は、約7万年分全長45メートルにわたる本物の年縞です。この圧倒的なスケールを目の当たりにすると、私たちが生きる時間が、地球の壮大な歴史の中のいかにわずかな一瞬であるかを肌で感じるすることができます。



年縞は気候変動の記録として「世界の歴史を測るものさし」と言われるほど学術的に貴重であり、学生の皆さんの歴史観や世界観を大きく広げる教育的価値があります。展示室は窓から自然を一望でき、さらに天窓からの光が思索的な雰囲気を生み出しています。

#### 【午後の視察と研修の結び】

この博物館は、単に知識を得る場ではなく、建築を通して「壮大な時間」と「自然の雄大さ」を五感で感じられる、非常に教育的価値の高い施設でした。学生の皆さんには、隣接する縄文博物館も含め、ぜひ一度訪れて自身の表現や創造のヒントを得てほしいと強く感じます。

午後は、歴史と文化に触れるため、敦賀市へ移動しました。ここでは、明治時代の「赤レンガ倉庫」と、戦前・戦中にポーランドなどヨーロッパからの難民を救済した歴史を伝える「敦賀ムゼウム」を見学しました。古い歴史的建造物と、新しい都市機能が調和し、美しい景観を創出している様子は、芸術と歴史が現代社会でどう共存していくべきかを考える貴重な機会となりました。

今回の一日研修では、顧問の方もご参加くださり、現理事との間で、昔の学生の様子や現在の大学の状況など、世代を超えた貴重な意見交換を行うことができました。この交流は、後援会の活動方針に深みと広がりをもたらすものとなりました。後援会役員一同、今後もこのような研修を通じて得た知見を活かし、皆さまの大切なお子様の創造的な学びと、将来の飛躍を、より一層力強くサポートしてまいります。

副会長（事業委員長）山下 文彰



## 【特集3】

## 2025年度芸大祭参加のご報告

11月1日・2日に開催されました「芸大祭」に、後援会として初めてブースを出展いたしました。実行委員の学生さんをはじめ、大学関係者の皆様の手厚いご支援により、無事に終えることができました。心より感謝申し上げます。

## ■出展のきっかけと内容

当初の計画にはありませんでしたが、役員の間で「より多くの保護者の皆様に、私たちの活動を知っていただきたい」という熱い議論がありました。学生さんからも「後援会も参加すればもっと盛り上がるはず！」と背中を押され、急遽出展を決定いたしました。

今回は準備期間を考慮し、まずは運営の進め方を学ぶことを目標としました。活動の一環として、保護者のサークル「壁の華」の皆様にご協力いただき、絵画や工芸品の展示とともに、日頃の学生支援の様子を紹介するコーナーを設けました。



## ■当日の交流と喜び

当日は予想を上回る大盛況で、小さなお子様から現役学生、同世代の親御さんまで、幅広い世代の方々とお話しできました。展示作品が「学生の親が制作したもの」と伝えると、皆様驚かれ「自分も挑戦してみたい」と嬉しい声をい



ただきました。

また、卒業生の保護者（後援会OB）の方も来場され「今の活動が知れて嬉しい、頑張ってください」と励ましてくださいました。私たちの活動が先輩方から大切に引き継がれていることを実感し、胸が熱くなる思いでした。

## ■親子をつなぐ「芸術」の力

展示をご覧になったある保護者の方が仰った「親子が『芸術』という同じ関心事でつながれる。これこそが芸大ならではの魅力ですね」という言葉が、深く心に残っています。

大学は、親子が目に見えない絆を深められる貴重な場所です。後援会の活動の根底には、こうしたご家族の温かい思いがあるのだと確信いたしました。また、入学を検討中の中学生と親御さんも来場され、本学への期待を肌で感じることができました。

初めての参加でしたが、多くの出会いと学びに満ちた有意義な時間となりました。この経験を糧に、来年以降も芸大祭を通じて、学生支援と保護者同士の交流の輪を広げてまいります。

副会長（事業委員長） 山下 文彰

【特集4】  
理事研修

名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ  
第44回定期演奏会 鑑賞のご報告

日 時：2025年9月12日（金）18:30~20:30  
場 所：愛知県芸術劇場コンサートホール  
演 目：レスピーギ作曲

「ローマの松（吹奏楽編曲版）」他

参加者：高木、杉田、中野、カフェル、石橋、  
恒川、山下 以上7名



鑑賞レポート

2025年9月12日（金）に愛知県芸術劇場コンサートホールにて開催されました「名古屋芸術大学ウィンドオーケストラ 第44回定期演奏会」を鑑賞させていただきましたので、ご報告いたします。

ウィンドオーケストラは、吹奏楽とも呼ばれ、普段よく耳にするトランペットやクラリネット、サクソフーンといった管楽器と、打楽器だけで演奏されるものです。バイオリンなどの弦楽器を使わない、迫力ある音色が特徴です。

当日は4つのプログラムが演奏されましたが、特にメインプログラムのレスピーギ作曲「ローマの松」は圧巻でした。曲の途中で、パイプオルガンの荘厳な音色が響き渡り、また舞台袖から別の金管楽器が演奏に加わるなど、

学生の皆さんが作り出す壮大な音楽空間に、会場全体が包み込まれるようでした。

学生さんたちの演奏技術の高さは本当に素晴らしい一言に尽きます。日頃の練習の成果を存分に発揮されており、改めて学生の皆様の才能と努力に感動いたしました。

今回の演奏会には多くの方が来場されましたが、とりわけ中高生の皆さんの姿が目につきました。おそらく、吹奏楽部で活動している生徒さんたちだと思います。自分たちの少しか年上のお兄さん、お姉さんたちの素晴らしい演奏を聴き、きっと、胸に響くものがあったことでしょう。

終演後、出演された学生の保護者の方とお話する機会もございました。無事に演奏会を終え、ほっと安心された表情がとても印象的でした。私たちがこうして学生の活動を見守り、応援していることが、ご本人だけでなく、保護者の皆様にとっても大きな励みになるのだと、改めて実感いたしました。

後援会は、これからも学生の皆様の活動を積極的に応援してまいります。今後ともご支援ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

副会長（事業委員長） 山下 文彰



# 2025年度名古屋芸術大学芸大祭活動報告

芸大祭実行委員会 実行委員長 木村 爽暉

今年度の芸大祭は、総合芸術大学である名古屋芸術大学の強みをアピールするため、東西両キャンパスの特色をミックスし新たな魅力を生み出す機会にしたいという期待を込めて、『個性合体！MIX LABO』というテーマで開催しました。様々な芸術の分野や、教育の分野を学ぶ学生がいるため、個性があふれ出す学生たちの成果発表の場としても捉えています。

開催期間中 3500 名の来場者様をお迎えることができました。地域のみなさまに多くお越しいただき、芸大祭の認知度の高まりを身をもって感じられたことが何より嬉しく思えました。例年通り天候の心配もありましたが、開催中はクレーム、事故、怪我が 1 件もありませんでした。



2 日間の開催となり実質的な規模縮小となった中でも、後援会様のご支援により予算が大幅に増え、限られた時間の中でいかに予算を有意義に活用するかということを常に考え、芸大祭



の運営側として大切にしたいと思うところには惜しみ無く予算を割くことができました。これまでの経験からより効率よく運営できる場所を見つけたり、改善策をチームで話し合ったりなど、まだまだ成長途中である我々実行委員会として、とても大きな学びの 1 年となりました。

また、毎年新しいことに挑戦することを心がけており、学生食堂とのコラボメニューの開発や、子ども向けワークショップの実施など、来場者の方に喜んでいただき、手応えを感じられたことも大変嬉しく思います。

最後になりますが、このような芸大祭の成功は我々実行委員会のちからのみでは到底実現することはできません。日頃からご協力頂いている教職員の皆様、ご支援いただいている後援会の皆様、ご来場いただいた皆様に心より感謝を申し上げます。来年度の芸大祭にもぜひ足をお運びください。実行委員一同、お待ちしております。



## 学務部報告

# 学生の「声」から見えてきたこと

## — 音楽総合コース・ヒアリングの取り組み —

学務部教務チームでは現在、音楽総合コースの学生を対象とした個別ヒアリングを行っています。授業や成績といった数値だけでは見えてこない、学生一人ひとりの実感や思いに耳を傾け、今後の教育やサポートの在り方を考えることが目的です。こうした「数字に表れない部分」を丁寧にすくい上げるため、教務チームでは対話を重ねるヒアリングに力を入れています。今回は、そのヒアリングでどのようなことを聞き、どのような点が少しずつ見えてきているのかをご紹介します。

### ・「音楽総合コース」とはどんなコース？

音楽総合コースは、特定の分野に早い段階で絞り込むのではなく、演奏、理論、教育、制作など、音楽に関わるさまざまな分野を横断的に学べる点が特徴です。

「まだ将来の方向性を決めきれていない」「複数の興味がある」「まずは幅広く学びたい」といった学生にとって、柔軟に学べる環境が整っていることから、毎年多くの学生が在籍しています。

一方で、「自由度が高い」ことは、学生にとって魅力であると同時に、迷いやすさにもつながる側面があります。そうした点も含めて、実際に学生はどのように感じているのかを知るため、今回のヒアリングを実施しています。

### ・入学前、学生はどんなイメージを持っていた？

1年生へのヒアリングでは、まず「入学前に総合コースをどのくらい理解していたか」や、「どこから情報を得ていたか」を聞いています。

大学の公式ホームページやパンフレット、オープンキャンパス、高校の先生や家族など、情報源は学生によってさまざまです。

また、「幅広く学べそう」「自由に履修できそう」といった前向きなイメージがある一方で、「専門の方向性が少し分かりにくそう」「情報が少なく、よく分からなかった」と感じていた学生もいます。

こうした入学前のイメージは、その後の学び方や不安にもつながるため、大切なポイントとして丁寧に聞いています。

### ・なぜ総合コースを選んだのか？

総合コースが第一志望だった学生もいれば、複数の選択肢の中から選んだ学生もいます。「総合コースがなければ、他大学や他コースを選んでいたかもしれない」と語る学生もおり、このコースの存在が進学の決め手になっていることがうかがえます。

また、家族や高校の先生、音楽活動の先輩など、周囲の大人からどのような助言を受けたのか、その意見がどの程度影響したのかについても質問しています。保護者や

教員の言葉が、学生の進路選択に大きな役割を果たしていることを改めて感じる場面もありました。

### ・「不安」も含めて聞いています

入学前に不安があったかどうかについても、多くの学生が率直に答えてくれています。

「とても不安だった」「少し不安があった」という声の背景には、授業についていけるか、将来の方向性を見つけられるかといった思いがあります。

一方で、「あまり不安はなかった」「楽しみの方が大きかった」という学生もいます。こうしたさまざまな気持ちを知ることで、入学前後の学生をどのように支えていくべきかを考える手がかりになります。特に1年次は、履修の組み立て方や相談先が分からず、「これで合っているのか不安だった」と振り返る声もあり、入学直後のきめ細やかな情報提供や声掛けの重要性を感じられました。

### ・2年生に聞く「今」のリアル

2年生には、現在の学びや主専攻の決定状況について聞いています。主専攻がすでに決まっている学生もいれば、興味が複数あり迷っている学生もいます。これは総合コースならではの課題とも言えるでしょう。

また、「幅広く学べることは魅力である」と感じている一方で、「選択肢が多くて迷う」「どの授業を選べばよいか分かりにくい」といった意見も聞かれます。

自由度の高さが強みであるからこそ、学生への情報提供やサポートの重要性が改めて浮かび上がってきています。

### ・イメージの変化と満足度

2年生への質問では、入学前と比べて総合コースのイメージが「よくなった」「変わらない」「少し変わった」と、感じ方はさまざまです。

現時点での満足度や、「もし1年生に戻れるとしたら、再び総合コースを選ぶか」といった問いからは、学生が自分自身の学びを振り返りながら、将来について考えている様子が伝わってきます。

### おわりに

#### — 学生の声を、これからにつなげる —

今回のヒアリングは、音楽総合コースの学生の声を直接聞き、今後の教育や支援の在り方を考えるための大切な取り組みです。寄せられた意見や気づきは、委員会等で共有し、より良い学びの環境づくりに生かしていく予定です。また今後は、他の領域やコースにも実施する予定です。

こうした活動は、後援会の皆さまの温かいご支援に支えられて実現しています。今後とも、学生一人ひとりの成長を共に見守っていただけましたら幸いです。

経営本部 学務部教務チーム 平子輝昇

## 学務部報告

# 学生の未来を支えるキャリア支援

名古屋芸術大学後援会の皆さまには、日ごろより本学の教育活動ならびに学生支援に多大なるご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。学生支援チームでは、学生一人ひとりが将来への希望を持ち、自分らしい進路を切り拓けるよう、キャリア形成支援を中心にさまざまな取り組みを進めております。面談や講座、インターンシップなど、多角的な支援を通して、学生が安心して就職活動に臨める環境づくりを進めています。

近年の新卒採用市場では、学生が比較的有利な売り手市場の傾向が続いていますが、業界や企業規模によっては競争が厳しくなるなど、二極化の傾向も見られます。企業の採用活動は例年以上に早期化・長期化し、多くの学生が本格的な就職準備を大学2年次から進めています。また、インターンシップや仕事体験が選考に直結しやすくなったことから、企業側の受け入れ機会も拡大しています。さらに、就職活動の進め方にも変化が見られ、生成AIを活用した情報収集や書類作成、面接対策が一般化し、前年の約2倍に増加しています。企業側もこうした変化を踏まえ、選考の在り方を見直す動きが広がっています。このような環境の変化を踏まえ、本学では学生が自らの強みを理解し、希望と納得を持ってキャリアの第一歩を踏み出せるよう、早期から段階的な支援を行っています。

以下に、今年度の就職活動状況をはじめ、資格取得支援講座、キャリア相談、インターンシップの実績など、学生の成長を支える取り組みについてご報告いたします。今後も、学生が社会で大きく羽ばた

けるよう、より一層充実した支援体制の構築に努めてまいります。

### 1. 資格取得支援講座の拡充と高い合格実績

今年度は、就職活動に直結するスキル習得を目的に、以下の5講座を開講しました。

- MOS (Word・Excel・PowerPoint)
- 秘書技能検定 2 級対策講座
- 簿記検定 3 級対策講座
- Illustrator・Photoshop 講座
- ヤマハグレード試験対策講座

各講座では、基礎的な知識から実践的なスキルまで段階的に学べる体制でサポートしています。今年度の資格取得実績は、MOS：全員合格 [Word：15 名全員合格・Excel：25 名全員合格・PowerPoint：19 名全員合格] 3 科目すべて受験した7名は全員合格 (MOS associate 取得)、秘書検定 2 級：12 名中 8 名が合格 と、着実に力をつける学生が増えています。来年度も、学生の学びと進路選択に寄り添った講座運営を続けてまいります。

### 2. 本学に届いた求人数と就職状況の推移

本学に届く求人数は年々増加しており、令和6年度(25年3月卒):36,000件、令和7年度(26年3月卒):39,000件、令和8年度(27年3月卒):現在時点で8,000件と、多くの企業から期待をいただいております。就職率も安定して高い水準を維持しており、デザイン・クリエイティブ、サービス、

7/7(月)	7/8(火)	7/9(水)	7/10(木)	7/11(金)
<b>進学進路講座</b> 12:00-13:00 14:00-15:00 16:00-17:00 18:00-19:00 20:00-21:00 22:00-23:00	<b>面接対策講座</b> 12:00-13:00 14:00-15:00 16:00-17:00 18:00-19:00 20:00-21:00 22:00-23:00	<b>面接対策講座</b> 12:00-13:00 14:00-15:00 16:00-17:00 18:00-19:00 20:00-21:00 22:00-23:00	<b>面接対策講座</b> 12:00-13:00 14:00-15:00 16:00-17:00 18:00-19:00 20:00-21:00 22:00-23:00	<b>面接対策講座</b> 12:00-13:00 14:00-15:00 16:00-17:00 18:00-19:00 20:00-21:00 22:00-23:00

情報通信、製造、学校教育、公務員など、多様な業界へと活躍の場を広げています。

また、売り手市場に加え、オンライン選考やインターンシップ制度の変化など、就職活動の形は大きく変わりつつありますが、本学では時代の変化に合わせたインターネット媒体での情報提供や支援体制を整え、学生が安心して就職活動に臨めるよう努めています。

### 3. キャリア相談体制の充実と相談件数の増加

キャリアサポート室では、年間を通して学生のキャリア相談を受け付けています。相談件数は2023年度：500件、2024年度：600件、2025年度（12月末時点）：575件と年々増加傾向にあります。主な相談内容は「就職活動の始め方」「インターンシップ相談」「エントリーシートの添削」「模擬面接対策」など多岐にわたります。また今年度は、オンライン相談の充実や休暇期間中の相談機会の確保など、学生がより利用しやすい体制の整備に注力しました。また、専門的な視点から学生を支援するため、外部講師による個別相談も取り入れ、相談の質向上に取り組んでいます。来年度は、外部講師の相談枠をさらに拡充し、より多くの学生が気軽に相談できる環境づくりを進めてまいります。

### 4. 未内定学生への集中支援イベント「招福来楽」

7月の夏休み前には、4年生・院2年生の未内定学生を対象に、就職活動を後押しする集中支援イベント「招福来楽」を開催しました。留学生向け就活講座、ポートフォリオサイト[VIVIVIT]の活用講座、履歴書作成、面接対策、個別求人紹介Day、ホワイト企業の見分け方講座、起業相談など、多様なプログラムを実施し、延べ35名の学生が参加しました。参加学生からは、講座内容を参考に取り組みを進める様子も見られました。

### 5. 西キャンパス・キャリアサポート室の環境整備

学生がより利用しやすい環境を整えるため、西キャンパスのキャリアサポート室の改修工事を行いました。個別相談ブースの増設、Wi-FiやPC環境の整備、就活資料コーナーの拡充に加え、明るく開放的なオープンスペースを新設しました。相談がしやすく、情報を得やすい環境へと生まれ変わり、利用学生からも好評を得ています。



### 6. 企業連携インターンシップ「中日ドラゴンズ」での学び

今年度初めて、球団オフィシャル・ゴールドスポンサー契約を結ぶ中日ドラゴンズとの連携インターンシップを実施しました。本学の学生2名が、3日間にわたり球団運営の現場を体験しました。多くの専門職が連携する制作体制や、観客を第一に考える企画づくりなど、学内では得られない学びを深めました。

学生からは「一つの演出が多数のプロの力で作られていることに感動しました」（デザイン領域）「観客を満足させる姿勢を、今後の作品づくりにも活かしたい」（舞台芸術領域）との声が上がりました。この経験は、学生にとって大きな学びや刺激となり今後の進路選択にも良い影響を与える経験となりました。



### 7. 留学生への支援 — 特定活動ビザ申請状況

日本での就労を希望する留学生に対し、「特定活動ビザ」取得に向けた申請支援を行っています。2025年度は12名が申請し、12月末時点で5名が内定を獲得しています。（ほか、進学1名、帰国2名、就職活動継続4名）今後も、日本でのキャリア形成を希望する留学生が安心して活動できるよう、企業との接点づくりや就活スキル向上に向けたサポートを強化してまいります。

（学務部 学生支援チーム 佐々木 舞夏）

## 【就活最前線】 **私** が就職内定をもらうまで

### 芸術学部 芸術学科 音楽領域

#### 音楽総合コース 4年 関谷 百加

私は、ポストプロダクションにおいて音響効果・MAを行う制作会社から内定をいただきました。

幼い頃から音楽や映画といったコンテンツが好きで、将来それらに関わる仕事ができたらいいなと思っていました。そんな中で、作品の裏側には音楽や効果音を作り、表現の幅を広げている人たちがいることを知りました。録音に関することを幅広く学ぶことができるこの大学でなら、その世界に近づけるのではないかと考え、進学を決めました。

就職活動は3年生の後期から本格的に始めました。周囲の友人たちが前期から動いていたことを知り、強く焦りを感じていたことを覚えています。自分が何をしたいのかがはっきりしないまま、「みんながやっているから」という理由で動き出してしまったため、前期の就職活動では思うように選考に進むことができませんでした。その結果、音楽や映画とは直接関係のない一般職のみ内定をいただく状況となりました。このまま就職して、音楽は趣味として続けるという選択肢も頭に浮かびました。しかし、これまで頑張ってきた知識や経験を活かせないことへの悔しさが次第に大きくなっていきました。「これが最後の機会かもしれない」と思い、後期選考に挑戦した結果、現在の内定先とご縁をいただくことができました。

これから就職活動を始める方々にお伝えしたい

### 芸術学部 芸術学科 美術領域

#### 洋画コース 4年生 堀出 奏月

私は文化施設を管理・運営する団体から内定をいただきました。就職活動は3年生の夏から職場体験などに赴き、冬から面接など本格的にエントリーをはじめました。

私がこの団体に就職を決めた理由は、文化芸術に関わるお仕事をしたかったからです。私は美術を学んでいますが、新卒で美術に直接関係するお仕事で、労働条件が良い企業は多くはありません。規模が小さくて不安定だったり、実務経験を求めたりする場合がほとんどであったと思います。そのため、指定管理者制度を受けているところを探してエントリーしていました。指定管理者制度とは、自治体が民間企業に施設の管理を託す制度です。自治体と繋がっているため、比較的安心できますし、文化施設の管理ができれば表現の現場に居続けられます。

ただ、それでも自分が働ける環境の会社は多くはありませんでした。そのため、自分の就活の軸である「美術に関わる仕事」というものを拡大解釈し、直接的でなくても芸術の力が活かせる、または今後

ことは、「本当に自分が今、何をしたいのか」「何が好きなのか」と、できるだけ早い段階から自分自身と向き合う時間を持つことの大切



さです。この大学に入学する時点で、何が好きかはある程度明確かもしれませんが、表面的な「好き」だけでなく、もう一歩踏み込んで考えることで、自分が目指したい方向がより鮮明になります。実際に考えてみると、音楽を聴いて楽しむことが好きなだけで、それを仕事にすることは少し違うのかもしれないと気づいたり、学んできた分野の中でも「もっとここを突き詰めたい」と感じる部分が見えてくるかもしれません。自分の考えが明確になると、エントリーシートや面接でも無理をせず、自分の言葉で伝えられるようになりました。

一人で自問自答するのは簡単なことではありません。先生や先輩など、その分野をよく知る方に自分の気持ちを素直に話してみることで、一人で考えるよりも頭の中が整理されると感じました。就職活動は一人で抱え込むと、周囲と比べて落ち込んだり、必要以上に焦ってしまいがちです。無理をせず、周囲の人にたくさん頼ってほしいと思います。

これから就職活動に臨む皆さんを、心から応援しています。

も制作活動をしていきたいため、その学びになると思った企業も第二・三志望群として受けていました。具体的には、色の感覚を活かせる染色会社や、展示の空間をつくる空間ディスプレイ業界などです。最終的に第一志望に内定をいただきましたが、それらの企業を受けた経験が活かされて、納得内定に辿り着けたと思っています。



就職活動で大切なことは、積極的に行動することです。不安になることが多いと思いますが、不安を抱えたままでも思い切ってイベントに行ってみたり、勢いでエントリーしてみても流れを体感してみたりすることは、私にとってはとても重要でした。また、キャリア相談室の存在もありがたかったです。自分の考えや状況を外部に吐き出すことで、今後の道筋を定めることや、行動の勇気を出すことに繋がりました。案外怒られることはないので、就職活動の際にはぜひ利用してみるといいと思います。

## 芸術学部 芸術学科 デザイン領域 ヴィジュアルデザインコース 4年生 大石 和奈

私はキャラクターグッズのメーカーに、デザイン企画職として内定をいただきました。

業界や職種について本格的に意識し始めたのは、3年生の秋頃です。3年生の3月～4年生の夏頃にかけて、本格的に就職活動に取り組みました。

私が就職活動を通して特に大切だと感じたことは二つあります。

一つ目は、面接練習の重要性です。就職活動解禁とほぼ同時に本格的に動き始めたため、志望度の高い企業の一次面接が人生で初めての面接でした。何を聞かれ、どのように答えるべきか分からず、基本的なテンプレートすら知らない状態で臨んでしまい、結果は不合格でした。今振り返ると、志望度に関わらず、



練習として早期選考を受けておくべきだったと強く感じています。その後はキャリアセンターで面接練習を重ね、何度もフィードバックをいただきました。親身になって支えてくださった担当の方には、感謝の気持ちしかありません。

二つ目は、ポートフォリオの大切さです。多くの企業では書類選考の段階でポートフォリオの提出が求められ、その時点で制作物のクオリティや、自分がその会社に合っているかどうかを見られます。どれだけ意欲があっても、面接に進めないこともあります。志望企業の雰囲気や求める人物像を意識したポートフォリオ作りが重要だと実感しました。クオリティの高いポートフォリオ制作においても、キャリアセンターのサポートは非常に心強いものでした。

もし就活で行き詰まることがあったら、迷わず利用することをおすすめします。

就職活動は不安なことが多く、精神的につらい場面もあると思います。特にデザイナーや企画職は人気が高く、募集人数も少ないため、不合格が続くこともあります。私自身も何度もお祈りの連絡を受けました。それでも、周到的な準備を重ねつつ、最後は「なんとかなる」精神で踏ん張ることが大切だと思います。皆さんの挑戦を心から応援しています！！

と、キャリアセンターの方を通じて連絡をとっていただいた人事部の方が私のことを覚えていてくださったことなどが重なり、何より私自身が最終面接で全てを伝えきれなかったことを後悔していたためもう一度エントリーすることを決意しました。

もう一度選考を受けるに当たり初めて選考を受けた時よりも難しいことが沢山ありましたが、キャリアセンターの方やインターンシップでお世話になっていた劇場の方々にも相談に乗っていただき、無事に内定をいただくことができました。就職活動を終えて、同期を含む沢山の方に相談した時間が大切だったと感じています。お世話になった方々に感謝すると共に、就職活動を始める皆さんも相談する、という選択肢をぜひ活用してほしいと思います。応援しています！

と、キャリアセンターの方を通じて連絡をとっていただいた人事部の方が私のことを覚えていてくださったことなどが重なり、何より私自身が最終面接で全てを伝えきれなかったことを後悔していたためもう一度エントリーすることを決意しました。

もう一度選考を受けるに当たり初めて選考を受けた時よりも難しいことが沢山ありましたが、キャリアセンターの方やインターンシップでお世話になっていた劇場の方々にも相談に乗っていただき、無事に内定をいただくことができました。就職活動を終えて、同期を含む沢山の方に相談した時間が大切だったと感じています。お世話になった方々に感謝すると共に、就職活動を始める皆さんも相談する、という選択肢をぜひ活用してほしいと思います。応援しています！



## 芸術学科 芸術学部 舞台芸術領域 演出空間コース 4年 松木 花水実

私はミュージカルなどの舞台作品を上演する劇団の演出業務を担当する企業から、音響職として内定をいただきました。

高校では吹奏楽部に所属しており進学を考える際に、これからは舞台に立つ側ではなく舞台に立つ人を支える側になる仕事に就きたいと思うようになりました。その中で今までの経験が少しでも活かせる音響という仕事に興味を持ったのが私の就職活動の原点であると思います。

私が今の内定先を目指し始めたきっかけは3年生の1月頃に大学で行われた合同説明会です。その説明会で卒業生の方のお話を直接お聞きすることができたことと、午後から行われた交流パーティーで割り振られた席がその企業のブースだったこともあり興味を持ちました。結果として、その時に企業の方とお話できたことが内定にも繋がったと思います。

私は夏期募集での内定だったのですが、春季募集では最終面接で落選通知を受け取っており、内定を頂いていた他の企業に就職するつもりで考えていました。そんな中で実際に劇場に行って手掛けられた生の舞台を拝見して諦めきれなかったことと夏期募集にて偶然音響職の募集があったこ

(就活最前線) **私** が就職内定をもらうまで

芸術学部 芸術学科 芸術教養領域

リベラルアーツコース 4年 腰本 彩葉

私は、出身地である富山県の伝統的な鑄造技術を用いた鑄物メーカーから内定をいただきました。

私が就職活動を本格的に始めたのは、大学3年生の11月からでした。大学進学のために出身地の富山県でいたいと考えていたため、オンラインで開催される会社説明会などに参加することが多かったです。1、2年生の間なるべく多くの単位を取ることで、就職活動を意識し始める3年次のスケジュールに余裕を生み、都合が合えばなるべく現地のイベントにも参加していました。富山県では就職活動の交通費支援を行っていたため、積極的に利用しました。遠方の企業を考えている方は、行政の支援が何か無いか、一度確認してみるのも良いかと思います。

私が就職活動で苦労したことは、エントリーシート(以下、ES)の作成と面接です。ESは、キャリアサポート室に相談して作成し、書類選考は全て通過することができました。特に自己PRの部分では、自分では気付いていなかった自身の強みを、他者と対談することで探ることができ、自信にも繋がりました。

就職活動を経験した身としては、面接は数をこ

教育学部子ども学科

子どもICTコース 4年生 山下 華奏

私の内定先は浜松市の小学校教員です。中学生の頃から教員になりたいと考えるようになり、進路選択の段階からその目標を意識してきました。小学校教諭だけでなく幼稚園教諭の免許も取得し、幼い頃から続けてきた音楽を大学でも続けたいと考え、この大学に入学を決めました。

大学入学後は、講義での学びに加え、休日を中心に実践的な経験を積むことを大切にしてきました。こども写真館でのアルバイトやボランティア活動など、1年生の時から継続して取り組み、多くの子どもと関わる経験を大切にしてきました。特にアルバイトでは、乳児～成人の方、そして子どもだけでなく保護者の方々と関わることができ、教員としての姿勢や社会人としての基本を学ぶ場であったと感じています。

教員採用試験については、同じく教員を目指し1年生から勉強を進めていた友人に感化され、参考書や問題集を購入し、隙間時間を活用し勉強することを心掛けました。そして、必ず教員になりたいという思いがあること、自治体それぞれに魅力があり、受験前の段階では決められないという理由から、三重県、浜松市、埼玉県の3つの自治体を受験しまし

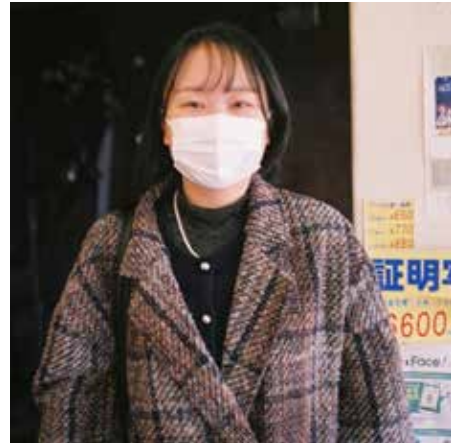
なすしかないと思いました。初めての面接はオンラインでしたが、緊張のあまり事前に用意していた回答を忘れてしまい、

上手く行かないまま選考から落ちてしまいました。回を重ねるごとに初回ほどの緊張は無くなり、機械的な受け答えではなく面接官と「会話」をすることができるようになりました。

最終的に、私は第一希望の企業から大学4年の5月に内定をいただき、そこに就職を決めました。特にやりたいことが無かった私は、どの業種、企業を志すか悩むことが多かったですが、「ここで働きたい」と思えるような会社と出会うことができました。将来を決める大切な選択ではありますが、あまり思い詰め過ぎず、自分に自信を持って頑張ってください。

た。最終的に、ありがたいことに3つの自治体全てから合格をいただきましたが、その中でも浜松市は、幼稚園教諭免許や、大学入学後に取得したITパスポート、英検の資格が加点として評価されたことに加え、「音楽の都」を目指す取り組みにも強く魅力を感じました。受験を通して、最も自分自身に合っていると感じた浜松市で教員として働くことを決意しました。

内定をいただくまでを振り返ると、空いた時間を使いながら無理のない範囲で継続して取り組むことが最も大切であると感じます。また、一人で抱え込むのではなく、友人や大学の先生方に相談し、支えていただいたことも大きな力になりました。大学生生活での人とのつながりや経験は、就職後も自分を支えてくれるものになると思います。





第6回

Award selection

## 第6回後援会賞授与式

名古屋芸術大学 第53回卒業・修了制作展が、2026年2月14日～2月23日に西キャンパスで開催され、制作展を鑑賞し在学生一人ひとりの個性と表現力の高さに深い感銘を受けました。

作品には確かな基礎力に裏打ちされた独自の視点を感じられ日々の研鑽の成果が随所に表われており、名古屋芸術大学後援会から後援会賞を4名選出させていただきました。

卒業生、修了生の皆様のさらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。

領域	美術領域日本画コース
氏名	藤田 大翔さん
作品名	群レテモサカナイ
領域	デザイン領域スペースデザインコース
氏名	白井 空さん
作品名	出汁巻き
領域	デザイン領域メタル&ジュエリーデザインコース
氏名	今井 若菜さん
作品名	紅白漆塗若鶏胴具足
領域	デザイン領域ヴィジュアルデザインコース
氏名	水野 亜友加さん
作品名	視覚で食べる



藤田 大翔 / 群レテモサカナイ



白井 空 / 出汁巻き



今井 若菜 / 紅白漆塗若鶏胴具足



水野 亜友加 / 視覚で食べる



## 第53回名古屋芸術大学卒業・修了制作展 優秀賞

第53回名古屋芸術大学卒業・修了制作展の優秀賞が発表されました。

### 優秀賞

領域	コース	学生名	作品タイトル
美術	日本画	安藤 萌梨	祈りにふれためぐもり
美術	洋画	井田 蘭乃	崩れる花の女は咲いていた
美術	洋画	河合 華	遊園地は実在する。
美術	洋画	堀出 奏月	侵食、運搬、堆積
美術	現代アート	村上 可威	continue
美術	コミュニケーションアート	岩田 彩花	制服
美術	工芸	篠田 あすか	静かな世界
デザイン	ヴィジュアルデザイン	鈴木 麻桜	文字宇宙
デザイン	ヴィジュアルデザイン	加藤 もも	「見る」から「感じる」へ
デザイン	イラストレーション	岩畑 杏実	真面目の所在
デザイン	イラストレーション	田中 佑奈	2023/05/03 15:09
デザイン	イラストレーション	林 亜優	絵本「雪の村のトウエ」
デザイン	イラストレーション	松原 椿	漫画「水槽を叩かないで」
デザイン	先端メディア表現	加藤 陽介	Digital Emotionscape
デザイン	先端メディア表現	金 智珉	C.O.G.S
デザイン	先端メディア表現	廣瀬 美颯	ものところのあいだ
デザイン	メディアコミュニケーションデザイン	伊藤 怜奈	Tenotori
デザイン	メディアコミュニケーションデザイン	纈織 朋佳	Survival machine
デザイン	メディアコミュニケーションデザイン	林 弓月	喫茶キビ
デザイン	ライフスタイルデザイン	鴨下 ゆづ	Constellations in My Room - "片付けられない" を読み変える
デザイン	ライフスタイルデザイン	小式澤 蘭奈	爪装美術館～指先で魅せるアイデンティティ～
デザイン	カーデザイン	西田 涼兵	VIDA
デザイン	インダストリアル&セラミックデザイン	山本 蓮菜	honoiro
デザイン	スペースデザイン	田中 遥乃	紙変幻～場をつなぐ、やわらかな境界～
デザイン	スペースデザイン	後藤 舞衣	コードモゴロ復活大作戦!
デザイン	テキスタイルデザイン	山本 舞瑠	Dual in the sweet cafe
デザイン	テキスタイルデザイン	水谷 美優	海の底の雲もよう
デザイン	メタル&ジュエリーデザイン	三角 明日香	忌避
デザイン	文芸・ライティング	浅岡 美月	ヘリオスの子に翼はあらず
芸術教養	リベラルアーツ	三浦 あづさ	絵本をめぐるアートワールドー「ごんぎつね」の挿絵および絵本に着目してー
舞台芸術	舞台美術	大場 有乃	距離と変化

### 優秀賞大学院

コース	学生名	作品タイトル
大学院 美術研究科 同時代表現研究	平岡 真生	ここを出る、地面から離れる、できるだけ遠くに行く
大学院 デザイン研究科 デザイン専攻 3Dデザイン研究	杉浦 泰偲	河原ぐらし



## 最優秀賞 / 北名古屋市賞 / 教育委員会賞 / 企業賞

第53回名古屋芸術大学卒業・修了制作展授与式にて最優秀賞 / 北名古屋市賞 / 教育委員会賞 受賞者が発表されました。

賞名	領域	コース	学生名	作品タイトル
北名古屋市教育委員会賞	美術	現代アート	村上 可威	continue
	美術	コミュニケーションアート	岩田 彩花	制服
北名古屋市賞	デザイン	イラストレーション	岩畑 杏実	真面目の所在
	デザイン	メディアコミュニケーションデザイン	伊藤 怜奈	Tenotori
最優秀賞	美術	洋画	堀出 奏月	侵食、運搬、堆積

第53回名古屋芸術大学卒業・修了制作展に企業様よりご協賛いただきました、「企業賞」が発表されました。

賞名	領域	コース	学生名	作品タイトル
名古屋芸術大学後援会賞	美術	日本画	藤田 大翔	群レデモサカナイ
	デザイン	スペースデザイン	白井 空	出汁巻き
	デザイン	メタル&ジュエリーデザイン	今井 若菜	紅白漆塗若鷲調具足
名古屋芸術大学美術・デザイン同窓会賞	デザイン	ヴィジュアルデザイン	水野 亜友加	視覚で食べる
	美術	日本画	岡田 玲奈	たいせつのかたち
CBC賞	デザイン	イラストレーション	岩畑 杏実	真面目の所在
	美術	大学院 絵画研究 日本画制作	大竹 しおり	夜空に巡って
画荘ヴィーナス賞	大学院	デザイン専攻 3Dデザイン研究	杉浦 泰偲	河原ぐらし
	デザイン	イラストレーションコース	岩畑 杏実	真面目の所在
	美術	工芸	岩田 歩実	Moments
後藤紙店賞	美術	現代アート	野田 悠佳	Series : sei
	美術	日本画	岡田 玲奈	たいせつのかたち
	美術	日本画	廣瀬 芽依	Wanderlust
古川美術館賞	美術	洋画	篠田 佳織	降り落ちる
	美術	洋画	河合 華	遊園地は実在する。
	大学院	美術研究科 美術専攻 同時代表現研究	白村 心音羽	美りの部屋、幽霊のライン
共栄食品賞	大学院	美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作	棚次 寛	自分景
	デザイン	テキスタイルデザイン	清水 咲和	Sushi wonderland
美濃紙芸賞	デザイン	スペースデザイン	白井 空	出汁巻き
	大学院	美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作	伊藤 歩生	明日天気がいいだつて
ギャラリーMOS賞	美術	日本画	岡田 玲奈	たいせつのかたち
	デザイン	スペースデザイン	田中 遥乃	紙変幻～場をつなぐ、やわらかな境界～
立風賞	大学院	美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作	小川 友季	移りゆく
	大学院	美術研究科 美術専攻 絵画研究 日本画制作	大竹 しおり	夜空に巡って
	美術	日本画	安藤 萌梨	祈りにふれためぐもり
MOZOワンダーシティ賞	美術	工芸	王 恵貞	Erfahrungsboden : 迷い込みの流れ
	美術	工芸	西村 匠平	「間」～ソレデモ わたしは～
	美術	日本画	岡田 玲奈	たいせつのかたち
加藤画材店賞	デザイン	イラストレーション	田中 佑奈	2023 / 05 / 03 15 : 09
	デザイン	テキスタイルデザイン	川松 紗彩	collection
名古屋みなと鳥屋書店賞	デザイン	先端メディア表現	廣瀬 美颯	ものところのあいだ
	デザイン	インダストリアル&セラミックデザイン	濱口 奈々	立体家紋 一生活に寄り添う家紋のあり方ー
東海テレビ賞	美術	コミュニケーションアート	岡島 百那	邂逅
	デザイン	メディアコミュニケーションデザイン	纈織 朋佳	Survival machine
ジェイアールセントラルビル賞	デザイン	メディアコミュニケーションデザイン	山本 美空	Hidden in Plain Sight
	美術	洋画	篠田 佳織	降り落ちる
	デザイン	ヴィジュアルデザイン	水野 亜友加	視覚で食べる
一般社団法人 洛陽NUAキャリア法務支援機構賞	デザイン	イラストレーション	林 亜優	絵本「雪の村のトウエ」
	美術	日本画	林 弓月	喫茶キビ
	美術	洋画	袁 藝容	海月
デザイン	メディアコミュニケーションデザイン	立枕 由衣	息をする	
デザイン	イラストレーション	纈織 朋佳	Survival machine	
デザイン	イラストレーション	都竹 匠	遠隔性効果	



## 2025年度 第29回ブライトン大学賞授与式

### ■ 2025年度第29回ブライトン大学賞授与式 および交流事業報告

2026年2月20日（金）、名古屋芸術大学西キャンパスB棟大講義室にて、「第53回名古屋芸術大学卒業・修了制作展 優秀賞授賞式」と併せ、「第29回ブライトン大学賞 授与式」が行われました。

#### 両校の絆を深める相互表彰制度

本学と学術交流協定を結ぶ英国ブライトン大学アート&メディア学部とは、長年にわたり卒業制作展の時期に合わせ、互いの学生に対して賞を授与し合う国際交流を続けています。ブライトン大学からは本学学生へ「ブライトン大学賞」が、本学からは後援会の協賛によりブライトン大学の学生へ「名古屋芸術大学賞」がそれぞれ贈られます。

#### 厳正なる審査結果

今回の「ブライトン大学賞」の選考では、ブライトン大学のGavin Ambrose先生とJeremy Radvan先生に審査員を務めていただきました。ノミネートされた28件の作品に対し、オンラインでの厳正な審査が行われ、10

件が選定されました。

また、ブライトン大学の卒業作品展「Brighton Summer Shows '25」における「名古屋芸術大学賞」の審査も実施されました。本学のデザイン領域および美術領域の専任教員による投票の結果、11作品のノミネートの中から、グランプリ1作品、優秀賞2作品、奨励賞3作品の計6作品が選出されました。

#### さらなる交流の発展に向けて

2020年以降、パンデミックの影響により実地審査からオンライン審査へと形態を変えて継続してまいりましたが、2026年度からはより直接的な交流が再開となります。例えば2026年4月より、ブライトン大学から2名の交換留学生を迎え入れることが決定いたしました。留学生はそれぞれ「音楽領域サウンドメディア・コンポジションコース」と「デザイン領域イラストレーションコース」に所属し、本学の学びの場に新たな刺激をもたらすことでしょうか。国際交流センター委員会は、今後も両大学の創造的な交流を深め、学生たちの国際的な視野を広げる活動に尽力してまいります。

結果	領域・コース	氏名	作品名
グランプリ	舞台芸術領域・舞台美術コース	大場 有乃	距離と変化
優秀賞	デザイン領域・ビジュアルデザインコース	徐 于径	Visualization of Love/愛情の可視化
奨励賞	デザイン領域・メディアコミュニケーションデザインコース	縺縺 朋佳	Survival Machine
奨励賞	デザイン領域・スペースデザインコース	藤居 航	しかん45°
佳作	美術領域・日本画コース	安藤 萌梨	祈りにふれたためもり
佳作	美術領域・現代アートコース	野田 悠佳	Series: sei
佳作	美術領域・現代アートコース	嶋野 文台	CORN
佳作	美術領域・コミュニケーションアートコース	辻 菜心	mater
佳作	デザイン領域・メディアコミュニケーションデザインコース	東 真優	Unusual Became Normal
佳作	デザイン領域・インダストリアル&セラミックデザインコース	濱口 奈々	立体家紋

# 皆さん受賞おめでとうございます

2025年度の本学在学学生(学部及び大学院生)や卒業生の展覧会や各種コンクール等における受賞結果を報告します。学外のイベントでの受賞者については、本人及び教員を通じて広報部に報告があった内容を掲載しています。

日	イベント名	主催	順位・受賞名	領域・コース・学年(受賞時)	氏名
<b>2025</b>					
2/5	新世代サンデー賞 2024年度 11月期	小学館	奨励賞	デザイン領域 イラストレーションコース 3年	PN. うおりんご
2/10	第10回国際モスクワ音楽オンラインコンクール	International Moscow Music Online - Competition (IMMC)	ピアノ部門 18歳~21歳カテゴリー 第2位	音楽領域プロフェッショナルアーティストコース 2年	アウヤン ウエイナ
2/19	月刊美術 美術新人賞デビュー 2025	月刊美術	入選	美術研究科 絵画研究 日本画制作 修了	中野 ともよ
3/5	ジャパン・テキスタイル・コンテスト(JTC) 2025	ジャパン・テキスタイル・コンテスト開催委員会	シーズ賞	デザイン領域 テキスタイルデザインコース 3年	伊東宏花 / 太田春花 / 松下凜華
3/7	岐阜市文化芸術奨励賞	(公財)岐阜市教育文化振興事業団	受賞	美術研究科 絵画研究 洋画制作 修了	市川 あずさ
3/18	第55回 G ファンタジー新人マンガ賞	スクウェア・エニックス	奨励賞	デザイン領域 イラストレーションコース 4年	いちのせ
3/21	愛知県芸術選奨	愛知県	文化新人賞	美術学部 陶芸コース 卒業	酒井 智也
3/25	第14回 ジュラ・キシュ国際ピアノコンクール	(一社)東京国際芸術協会	大学生の部 第3位	音楽領域プロフェッショナルアーティストコース 2年	アウヤン ウエイナ
4/1	第11回 K サクソフォンコンクール	K音楽コンクール	ホール審査部門 大学・一般部門 奨励賞	音楽領域 卒業	丹羽 瑞穂
4/1	第11回 K サクソフォンコンクール	K音楽コンクール	動画審査部門 大学・一般部門 3位 / 3位 / 奨励賞	音楽領域弦管打コース 4年 / 3年 / 4年	上村 安美奈 / 梶田 思歩 / 西尾 香凛
4/1	第47回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	(一社)東京国際芸術協会	大学生の部 第1位	音楽領域弦管打コース 4年(フルート)	森川 遥風
4/1	第46回全日本ジュニアクラシック音楽コンクール	東京国際芸術協会	大学生の部 入選	音楽領域windアカデミー 4年(フルート)	村田 楽人
4/13	第59回新日春展	新日春会	山口蓬春記念館賞 / 日春賞	美術研究科 絵画研究 日本画制作 修了	中野 ともよ
4/13	第59回新日春展	新日春会	日春賞 / 日春賞 / 奨励賞	美術研究科 絵画研究 日本画制作 修了	福本 百恵 / 磯部 絢子 / 安藤 祐実
4/13	第59回新日春展	新日春会	入選	美術研究科 絵画研究 日本画制作 修了	佐藤 正子 / 安藤 祐実 / 大見 真里佳 / 福岡 正臣 / 山寺 良佳 / 楊 アショ
4/13	第59回新日春展	新日春会	入選	美術学部 日本画コース 卒業	小田 和子 / 榊原 孔美子 / 吉道 光
4/13	第59回新日春展	新日春会	入選	美術研究科 絵画研究 日本画制作 2年 / 2年 / 1年 / 1年	棚次 寛 / 伊藤 歩生 / 熊崎 教士 / 中島 梨瑠
4/13	第59回新日春展	新日春会	入選	美術領域 日本画コース 4年	中村 汐里 / 藤田 大翔
5/2	第393回スピリッツ賞	小学館	奨励賞	2018年度卒業(イラストレーション)	谷川 司(PN.たにかわつかさ)
5/7	A' Design Award 2024 - 2025	A' Design Award & Competition	家具部門 受賞	デザイン研究科 3Dデザイン 2年	杉浦 泰徳
6/4	新人漫画賞 SPARK (2024年4月期)	集英社 ジャンプ SQ	準入選	文芸・ライティングコース 3年	齋藤 樹
6/10	International Computer Music Conference in Boston 2025	The 50th Anniversary Of The International Computer Music Conference Committees	入賞	大学院 音楽研究科 音楽学専攻 芸術文化創造研究 2年	QIU YUFEN
6/13	SIT Furniture Design Award	SIT Furniture Design Award	子供家具部門 / キャビネット部門 受賞	デザイン研究科 3Dデザイン 2年	杉浦 泰徳
6/17	Milano Salone	Federlegno Arredo Eventi Spa	出展	デザイン研究科 3Dデザイン 2年	杉浦 泰徳
6/24	エコーノルマル音楽院卒業試験	バザル エコーノルマル音楽院	第一サイクルディプロマトレミアンにて取得	大学院 音楽研究科 器楽専攻 ピアノ演奏研究 2年	上田晴菜
6/24	ディプロマ試験	バザル エコーノルマル音楽院	ピアノ第1サイクル	音楽領域プロフェッショナルアーティストコース 1年	山本駿平
6/26	国際公募 第7回国際芸術展	日中国際交流センター	優秀賞	美術領域 洋画コース 2年	秦 康庭
6/28	エコーノルマル音楽院卒業試験	バザル エコーノルマル音楽院	第二サイクルディプロマ 取得	大学院 音楽研究科 器楽専攻 ピアノ演奏研究 2年	横井彩人
6/30	第1回 K名古屋コンクール	K音楽コンクール	動画審査部門 大学・一般部門 (Bブロック) 優秀賞	音楽領域 弦管打コース 3年	小森 綾大
7/9	第19回セシリア国際音楽コンクール	同事務局	室内楽部門 第2位	音楽領域 プロフェッショナルアーティストコース 4年 (Vn) / プロフェッショナルアーティストコース 卒業 (P) / 音楽総合コース 卒業 (Fl)	村瀬芽吹 / 柳澤実尋 / 福田京
7/24	ACジャパン学生広告賞	ACジャパン	新聞広告部門 優秀賞	デザイン領域 メディアコミュニケーションコース 4年	中澤 隼弥
7/27	チェコ音楽の祭典コンクール 2024	日本チェコ楽友協会	ピアノチェレレ部門 入賞	音楽領域音楽総合コース 4年(フルート)	伊藤 優寿
7/27	2025 豊田声楽コンクール	豊田音楽コンクール事務局	大学・一般 A 部門 銀賞	大学院音楽研究科(声楽) 1年	佐藤 那奈江
8/3	第10回とやまクラシックピアノコンクール	同実行委員会	奨励賞 (Fコース)	音楽領域プロフェッショナルアーティストコース 4年	柳澤 実尋
8/5	新世代サンデー賞 2025年度 5月期	小学館	努力賞	デザイン領域 イラストレーションコース 4年	PN. うおりんご
8/21	第27回 亀倉雄策賞	(公社)日本グラフィックデザイン協会	受賞	美術学部 デザイン科 卒業	林 規章
8/25	第22回日本フルートコンベンションコンクール	(一社)日本フルート協会	ソロ部門 第2位	音楽領域 音楽総合コース 卒業 (Fl)	福田 京
8/26	北名古屋市長 20周年記念ロゴマーク・キャッチフレーズ	北名古屋市長	グランプリ / 準グランプリ / 佳作	デザイン領域 ヴィジュアルデザインコース 3年 / 4年 / 4年	松田 真優子 / 鈴木 麻桜 / 石田 陽子
8/28	JAGDA 国際学生ポスターアワード 2025	(公社)日本グラフィックデザイン協会	入選	メディアコミュニケーションデザインコース 3年、ヴィジュアルデザイン 3年	榎本 大貴 / キム ミンジュ / 小林 結実 / 谷唯花
9/19	TALENT SUMMER INT'L COMPETITION	同実行委員会	第2位	大学院音楽研究科器楽専攻 ピアノ演奏研究 2年	秋山 紗穂
9/28	第30回みえ音楽コンクール	三重県文化会館	声楽部門本選 大学生・大学院生の部 第1位	音楽領域プロフェッショナルアーティストコース・3年生	渡邊美音
9/28	第30回みえ音楽コンクール	三重県文化会館	声楽部門本選 大学・大学院生の部 第2位	音楽領域声楽コース 2年	松本 弥々
9/30	第27回日本演奏家コンクール	一般財団法人日本演奏家協会	大学生の部 協会賞	音楽領域プロフェッショナルアーティストコース 3年	石田京香
10/6	第32回美濃和紙あかりアート展	同実行委員会	一般部門 入選	デザイン領域 スペースデザインコース 3年	東谷 雄貴 / 松下 葵

日	イベント名	主催	順位・受賞名	領域・コース・学年(受賞時)	氏名
<b>2025</b>					
10/10	第26回大阪国際音楽コンクール	同事務局	Section I : 声楽部門アリアコース Age - G 第3位 (Sop)	大学院音楽研究科修了	桐井 祐衣
10/10	第26回大阪国際音楽コンクール	同事務局	Section I : 声楽部門アリアコース Age - G 入選	音楽領域ディプロマコース 修了	申 湘昊
10/10	第26回大阪国際音楽コンクール	同事務局	Section I : ピアノ部門 Age - U 入選	音楽領域 音楽総合コース 4年	花島 未桜
10/10	第26回大阪国際音楽コンクール	同事務局	Section I : 管楽器部門 木管楽器 Age - U 入選	音楽領域 弦管打コース 3年	小森 雄大
10/10	第26回大阪国際音楽コンクール	同事務局	Section II : アンサンブル部門 第3位	音楽領域音楽総合コース卒業 (Fl)/ プロフェッショナルアーティストコース4年 (Vn)/ プロフェッショナルアーティストコース卒業 (P)	福田京 / 村瀬芽吹 / 棚澤実寿
10/19	第118回日展	(公社)日展	第2科 洋画 入選	美術学部 絵画科 洋画コース 卒業	安藤 嘉一
10/22	ジャパン・テキスタイル・コンテスト (JTC) 2025	ジャパン・テキスタイル・コンテスト開催委員会	シーズ賞	デザイン領域 テキスタイルコース 3年	伊東宏花 / 太田春花 / 松下凜華
10/23	第118回日展	(公社)日展	第1科 日本画 特選	美術研究科 絵画研究 日本画制作 2年 / 絵画研究 日本画制作 修了 / 造形専攻 彫彩制作研究 修了	大竹しおり / 福岡 正臣 / 若崎 文絵
10/23	第118回日展	(公社)日展	第1科 日本画 入選	美術研究科 絵画研究 日本画制作 修了	佐藤 正子 / 福本 百恵 / 山守 良佳
10/23	第118回日展	(公社)日展	第3科 彫刻 特選	美術研究科 造形専攻 彫刻 卒業生	加藤 真浩
10/23	手作りおもちゃコンテスト 2025	同事務局	東京おもちゃ美術館賞	教育学部子ども学科 2年	服部 佑菜 / 引場 結衣 / 前原 楓 / 戴原 唯愛
10/23	第118回日展	(公社)日展	第1科 日本画 入選	美術領域 日本画コース 4年 / 4年 / 卒業	天野 彩音 / 中村 汐里 / 橋原 孔美子
10/27	第94回日本音楽コンクール	毎日新聞社	フルート部門 第1位・岩谷賞(聴衆賞)	音楽領域 音楽総合コース 卒業 (Fl)	福田 京
11/1	第28回「長江杯」国際音楽コンクール	中国音楽理事会	声楽部門・大学生の部第1位及び理事長賞	音楽領域プロフェッショナルアーティストコース・3年生	渡邊美音
11/12	第27回日本演奏家コンクール	(一財)日本演奏家協会	ピアノ部門本選 大学生の部 協会賞	音楽領域 プロフェッショナルアーティストコース 3年	石田 京香
11/20	Rec't ST 第11回学生音楽録音コンテスト	(一社)日本オーディオ協会 他	優秀企画制作賞 / 奨励賞	音楽領域 サウンドメディア・コンポジションコース 3年	深井 龍心 / 平野 祥吾
11/22	第42回 JPTA ピアノ・オーディション 東海地区	公益財団法人 日本ピアノ教育連盟	D部門 (大学生部門等)	音楽領域プロフェッショナルアーティストコース 1年	山本駿平
11/24	第31回フッペル鳥栖ピアノコンクール	鳥栖市、鳥栖市教育委員会、フッペル鳥栖ピアノコンクール実行委員会	フッペル部門 第2位	大学院 音楽研究科 器楽専攻 ピアノ演奏研究 2年	福田万弥
11/24	第4回東京国際管弦音楽コンクール	(一社)東京国際芸術協会	【ミュージカル部門】プロフェッショナルの部 第1位、東京新聞賞	大学院音楽研究科声楽専攻修了	山田 久瑠見
11/29	JID AWARD 2025	(公社)日本インテリアデザイナー協会	NEXTAGE 部門 銅賞	デザイン領域スペースデザインコース 4年	後藤 舞衣 / 白井 空
12/4	第1回 ソフビ造形大賞	(株)海洋堂 / 南国堂	海洋堂スペースファクトリーなんこく賞	美術領域 コミュニケーションアートコース 1年	竹内 杏里
12/4	2025 JASIS 卒業作品展	日本インテリア学会	銅賞	デザイン領域 スペースデザインコース 卒業	鳥山 未愛
12/8	第12回デザインKピアノコンクール	K音楽コンクール	動画審査部門 奨励賞	音楽学部 卒業	船戸 真枝
12/14	CAF 賞 2025	(公財)現代芸術振興財団	優秀賞	美術研究科 同時代研究 2年	平岡 真生
12/14	第16回ヨーロッパ国際ピアノコンクール in Japan 全国大会 大学A部門	ヨーロッパ・ピアノ教会	一般A部門 ディプロマ賞	音楽領域プロフェッショナルアーティストコース 3年	アウヤン ウエイナ
12/23	第19回ベーテン音楽コンクール	ベーテン音楽協会	ファイナル大会 自由曲コース ピアノ部門 大学・院生Aの部 4位 (3位無し)	音楽領域プロフェッショナルアーティスト 2年	奥川 真禱
12/26	JAGDA 国際学生ポスターアワード 2025	(公社)日本グラフィックデザイン協会	準入選次点	デザイン領域ヴィジュアルデザインコース 3年	赤木 杏里花
12/26	JAGDA 国際学生ポスターアワード 2025	(公社)日本グラフィックデザイン協会	入選	デザイン領域メディアコミュニケーションコース3年/メディアコミュニケーションコース3年/ヴィジュアルデザインコース3年/交換留学生	畑本 大貴 / 小林 結菜 / 谷 唯花 / キム ミンジュ
12/26	ベートーヴェン国際ピアノコンクール 中部予選	ベートーヴェン国際ピアノコンクールアジア	E部門 優秀賞 (予選通過)	大学院 音楽研究科 器楽専攻 ピアノ演奏研究 1年	小柳さら
12/26	第12回なごや青少年ピアノコンクール	なごや青少年ピアノコンクール実行委員会、特定非営利活動法人みどり音楽祭、(公財)名古屋文化振興事業【緑文化小劇場】	プロフェッショナル部門第1位 総合第1位、愛知県知事賞	大学院 音楽研究科 器楽専攻 ピアノ演奏研究 1年	後藤雄也
12/26	第12回なごや青少年ピアノコンクール	なごや青少年ピアノコンクール実行委員会、特定非営利活動法人みどり音楽祭、(公財)名古屋文化振興事業【緑文化小劇場】	プロフェッショナル部門第2位、総合第2位、名古屋市長賞	音楽領域プロフェッショナルアーティストコース 3年	榊原未来
12/26	第11回なごや青少年ピアノコンクール	名古屋文化振興事業団	第1位 / 優秀賞	大学院音楽研究科器楽専攻ピアノ演奏研究 1年 / 音楽領域プロフェッショナルアーティストコース 2年	福田万弥 / 榊原未来
<b>2026</b>					
1/6	寿司店「魚忠」新キャラクターボイス	(株)魚忠	採用	音楽領域 声優アクティングコース 3年	深山 愛美
1/11	第31回 KOBE 国際音楽コンクール	同実行委員会	C部門 (大学生・一般) ピアノ部門 最優秀賞・神戸市長賞	音楽領域 プロフェッショナルアーティストコース 3年	アウヤン ウエイナ

## 音楽領域 ダンスパフォーマンスコース修了公演「BLOSSOM」

2025年12月27日(土)、名古屋芸術大学3号館ホールにて、ダンスパフォーマンスコース修了公演「BLOSSOM」が行われました。

ダンスパフォーマンスコースは、新しい時代に対応できるマルチな才能を持ったダンサーを育成することを目標としたコースです。

修了公演は一年間の授業の成果発表として、1～4年生全員で様々なジャンルのダンス作品を発表します。

今年もジャズダンス、ヒップホップ、タップダンス、コンテンポラリーダンス、ジャズファンク、アクション、テーマパークダンス、日本舞踊など、コースの講師陣が趣向を凝らした計18曲のナンバーが発表されました。

これだけの多彩なダンスジャンルに触れ、多くの芸術の価値観を学ぶことが、本コースの最大の魅力と考えています。

舞台スタッフはエンターテインメント・ディレクションコースの学生たちが担当します。制作やタイムスケジュール、音響や照明、舞台進行まで、全



て学生たちが進行し一丸となって舞台をつくりあげます。

ダンスパフォー



ランスコースの一年生の中には初めて人前で舞台に立つ学生もいましたが、スタッフや講師たちのサポートもあり、誰一人欠けることなく最後まで踊りきることができました。

終演後の学生たちの感想では、「ダンスパフォーマンスコースに入学してとても充実した日々を過ごすことができている」、「これからの目標・課題を見つけることができた」など、前向きな感想が多くありました。

公演には、年の瀬の忙しい時期にも関わらず150名程のお客様にご来場いただき、熱い声援で学生たちのパフォーマンスを盛り上げていただきました。



本公演の全ての関係者・支援者の皆さまに熱く御礼を申し上げます。

引き続き、変わらぬご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ダンスパフォーマンスコース講師 柘植 万梨恵

## 音楽領域 ミュージックエンターテインメント・ディレクションコース卒業公演

2025年度、ミュージックエンターテインメント・ディレクションコース(以下、エンタメコース)は、1年59名、2年48名、3年33名、4年52名の総勢192名(音楽総合コース含む)で活気あるスタートを切りました。

日頃、エンタメコースがどのような学びをしているのかお尋ねいただく機会も多いため、この場をお借りして改めてご紹介させていただきます。

皆さんは、コンサートホールや野外フェスなどのエンターテインメントに触れ、心が躍ったり元気をもらったりした経験はありませんか?

本コースでは、ポップス、ロック、クラシックといったあらゆる音楽ステージをはじめ、ミュージ

カルや演劇、各種イベントに不可欠な「音響・照明・舞台制作など」を担う専門スタッフを養成しています。

学生たちは4年間で、音楽領域内の多種多様なコース公演運営を数多く経験します。その積み重ねにより、技術の習得はもちろん、自分で公演をゼロから企画・立案する力も養います。広い視野と高いコミュニケーション能力を持ち、人々に感動を届ける「即戦力のマルチタス





ク人材」の育成。それが私たちの目指す教育の柱です。

去る、2025年11月30日(日)、4年生全員がひとつのチームとなり、4年間の学



びの集大成として企画・運営した卒業公演が、東キャンパスホールで開催されました。演目は、学生による完全オリジナル脚本の演劇『100 $\mu$ m(マイクロメートル)の怪獣』。52名の学生はプロデューサーを筆頭に、制作、演出、舞台、音響、照明、衣装等の各部署に分かれ、出演者は音楽領域の全コースを対象としたオーディションによって選出されました。



物語は1995年、2018年、2025年という3つの時代

を交差させながら進行します。「目に見えないほど小さな心の揺らぎが、いつの間にか取り返しのつかない『怪獣(絶望や孤独)』へと肥大していくプロセス」と、それに寄り添う人々の姿を描きました。「そばにいること」という救い、そして掃除や挨拶といった日常の些細なこと(100 $\mu$ mの変化)を大切にすることが、人を孤独という怪獣から守る唯一の手段であるというメッセージが込められています。

演出面では、時代が頻繁に入れ替わる難しい転換を乗り越えるため、ステージ上に回転可能な円卓状の舞台「まわり盆(回り舞台)」の設置を採用しました。本学ホールには舞台回転機構がないため、舞台部が装置を手作りで製作。照明部は3つの時代を光で鮮明に描き分け、音響部では演者の動きに合わせて音の方向が変わる「動的バイ

ノーラル」技術に挑戦するなど、随所にこだわりが光りました。

迎えた本番当日、会場は満員御礼となり、学生たちの情熱が結集したステージは、観客の皆様に深い感動を与え、まさに4年間の集大成にふさわしい公演となりました。



しかし、舞台人として終演後に何より気になるのは、お客様に記入いただいたアンケートの内容です。「とても良かった!」「学生とは思えないクオリティだ」といった多くの称賛をいただきましたが、これから社会へ出る皆さんには、あえて伝えたいことがあります。

それは、お客様の声の中にたとえ少数の厳しい意見があったとしても、決して疎かにしてはならないということです。その声を真摯に受け止め、次のステップへのエネルギーに変えていくこと。それこそがプロフェッショナルへの道です。

来年は現3年生の番です。先輩たちが築いた情熱のバトンを受け継ぎ、それを超える素晴らしい公演を創り上げてくれることを期待しています。

ミュージックエンターテインメント・ディレクションコース  
准教授 金子 靖(制作担当)



まわり盆テクニカルリハーサル動画

**第53回名古屋芸術大学卒業制作展(美術領域・デザイン領域・芸術教養領域・舞台芸術領域)**

第53回名古屋芸術大学卒業制作展を、2026年2月14日(土)から23日(月)までの10日間、本学西



正門赤ゲート

キャンパスにて開催いたしました。普段は教室として使用している屋内外の空間を活用し、さまざまな素材や技法を駆使した学部生293名、大学院生34名、計327名による研究成果を公開展示いたしました。会期中は春のように暖かい日も多く、6,419名の皆様にご来場いただきました。

今回、会場をくまなく見て回った中で特に印象的であったのは、各領域のコースごとに展示が構成されるなかで、いずれのコースにおいても「個」の差異が鮮明に表れていた点です。4年間、同じカリキュラムのもとで学びながらも、素材や技法の選択といった表現方法はもとより、テーマの切り口や視点も大きく異なり、学生一人ひとりの作品がきわめて個性的であることに強い印象を受けました。

社会や世界にあふれる問題を主題とする学生、身近な日常を丹念に観察し独自の世界を立ち上げる学生、あるいは自身のバックグラウンドを掘り下げて作品化する学生など、そのアプローチは実に多様です。同じ教育環境の中で育ちながらも、それぞれが自らの関心や経験、疑問を起点に異なる表現へと到達している姿に、本学の教育成果をあらためて実感いたしました。

今年度も卒展関連企画として、記念講演会をはじめ、さまざまな催しを実施いたしました。卒業記念講演会には、日本を代表するファッションデザイナーの一人である 皆川明 氏にご登壇いただき、



ウィークエンドコンサートの様子

「クリエイションと社会のつながり」をテーマにご講演いただきました。ものづくりが

社会とどのように関わり、新たな価値や暮らしを生み出していくのかについて、示唆に富むお話を賜りました。



優秀賞 北名古屋市教育委員会賞「制服」岩田彩花 (美術・コミュニケーションアートコース)

会期中には、今年度末で退職される 中澤英明教授(美術領域)による退職特別講演「古典絵画から学ぶ」も開催され、西洋絵画の幅広さと奥深さについてご講話いただきました。このほか、スタンプラリーをはじめ、ウィークエンドコンサート、NUA卒展限定ART SHOP、卒展ラジオ「ア―ラジオ」、名芸大チャリティーオークションなど、毎年恒例となっている企画も実施され、作品鑑賞とあわせて多くの来場者の皆様にお楽しみいただきました。

第53回展は、327名の学生による多様な作品と魅力的な関連企画の数々に支えられ、無事閉会いたしました。卒業制作展は、本学における教育研究成果発信の中核事業に位置付けられております。次年度以降も、学生たちの研鑽の質をさらに高めることを前提に、より一層の充実と発展に努めてまいります。

最後になりましたが、本展開催にあたりご尽力くださいましたすべての関係者ならびにご支援を賜りました皆様に、心より御礼申し上げます。今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

芸術学科長 松岡 徹



優秀賞 「[見る] から [感じる] へ」加藤もも (デザイン・ヴィジュアルデザイン)

## 第53回名古屋芸術大学大学院 修了制作展（美術研究科）

第53回大学院美術研究科修了制作展では、今年度、日本画制作6名、洋画制作4名、同時代表現研究4名、工芸制作2名の計16名の大学院生により、大学院生活2年間の集大成となる作品の展示が行われました。

同時代表現研究の白村心音羽さんの展示では、作者としての思考や疑問を瞬間的にドローイングや絵画、オブジェとして外在化させていく態度が印象的なインスタレーションでした。展示空間では、それぞれの痕跡が点として立ち現れ、鑑賞者の経験や視線によって線へと結ばれていきます。その不確かさや開かれた構造は、完成形を提示するのではなく、思考が生成・更新され続ける過程そのものを共有する実践として強く感じられました。



白村心音羽：美りのある部屋、幽霊のライン

工芸制作の杉山仁彦さんは、自身が制作した陶器と、その制作過程を収めたアーカイブを組み合わせ、空間全体を用いたインスタレーションを構成していました。アーカイブとして展示された映像や写真からは、陶器制作が持つ素材性に加え、焼成の不可逆性や待機時間を含む制作過程が明らかになり、作品が単体として完結するのではなく、制作環境や記録を含めた持続的な実践として成立していることが示されていました。

日本画研究の棚次寛さんは、日本画における伝統的な制作方法である支持体を床に寝かせて描く手法から、一般的なイーゼルを用いた制作へと意識的に移行し、さらに風景を現地で直接観察しながら制作を行っていました。その作品群は、かつての印象派絵画を想起させつつ、日本画と絵画の歴史的な文脈を横断的に捉え直す試みとして成立してい



杉山仁彦：半公共工芸スタジオ

ます。制作方法の選択そのものが表現内容と密接に結びつき、日本画という制度の内側からその可能性を再考する姿勢が明確に示されているように思いました。



棚次寛：自分景

本展は、各専攻における表現方法や素材、制作態度の違いを明確に示しつつ、いずれの作品においても制作プロセスそのものを問い直し、表現の更新を試みる姿勢が共通して見られる展示でした。思考の痕跡や制作環境、時間の積層を含めて提示する試みは、大学院での2年間にわたり培われた経験や知識、技術の向上を、形ある／目に見える成果として提示する貴重な機会となりました。

今年度修了した16名がこれからどのような環境に身を置き活躍の場を広げていくのか、教員としても作家としても非常に楽しみです。今後の皆さんの活動を心から応援しています。

美術研究科長 秋吉 風人

## 国際交流事業について

交換留学生展（7月、12月） 子ども芸術教室（7月、12月）

### ■交換留学生展（7月、12月）

#### 世界とつながるキャンパス

##### — 作品が橋渡しする「心と心の国際交流」

名古屋芸術大学では、単なる語学の習得に留まらない、芸術大学ならではの国際交流事業を展開しています。その中核を成すのが、年に2回（7月、12月）開催される「交換留学生展」です。

#### 言葉の壁を越える、芸術の力

「国際交流」と聞くと「英語での会話」を思い浮かべるかもしれませんが、しかし、本学の交流は一味違います。イギリス、フランス、ドイツなどのヨーロッパや中国や韓国のアジアから集まる「交換留学生」たちは、自身の「作品」を通してメッセージを発信するのです。展示の設営も留学生自らが行うため、学内の学生にとっては、海外独自の展示手法や空間構成を間近で学ぶ絶好の機会となっています。作品を通じてお互いの感性を刺激し合うことで、言葉を越えた「心と心の交流」が生まれる。これこそが、本学が誇る国際交流の大きな特徴です。

作品展開催に先立って行われる「レセプションパーティー」では、留学生たちが慣れない日本語を交えながら一生懸命にスピーチを行い、本学学生との親睦を深めます。こうした交流から、将来的な海外留学への意欲を抱く学生も少なくありません。2026年4月は過去最大規模の12名の交換留学生を迎え入れます。キャンパスの国際化はさらに加速し、日常に世界を感じられる環境が整います。



### 【保護者の皆様へ】国際交流がもたらすもの

本学での国際交流体験は、学生に以下の価値を提供します。

- 多角的な視点の獲得：異文化に触れることで、自身の創作活動に新しい視点を取り入れられます。
- 実践的な国際感覚：学内にいながら世界中の同世代と交流することで、社会で求められるグローバルな柔軟性を養うことができます。
- 将来の選択肢の拡大：留学生との絆がきっかけとなり、海外研修や交換留学へとステップアップする道が拓かれていきます。

名古屋芸術大学は、今後も学生たちが多様な文化に触れ、表現者として、そして人間として大きく成長できる環境をサポートしてまいります。



## ■子ども芸術教室（7月、12月）

### 地域と世界がキャンパスで出会う

#### —「子ども芸術教室」を通じた学びの循環

名古屋芸術大学では、北名古屋市と連携した国際交流事業として、地元の小学生を対象とした「子ども芸術教室」を年に2回（7月、12月）開催しています。この活動は、地域の子どもたちへの教育支援であると同時に、本学の学生や留学生にとっても、自身の専門性を社会に還元する貴重な実践の場となっています。

#### 【西キャンパス】 絵画を通じた「視点」の交流

2025年7月5日（土）、西キャンパスで開催された美術ワークショップでは、参加した子どもたちが絵を描くコツを学びました。留学生や在学学生から単に技術を教わるだけでなく、異なる文化的背景を持つ留学生の「色の捉え方」や「構図の自由さ」に触れることで、子どもたちにとっては「正解は一つではない」という多様な考え方を学ぶ機会となり、学生たちもまた、教えることを通じて自らの表現を見つめ直す、瑞々しい刺激を受けることができました。



#### 【東キャンパス】 手作り楽器で奏でる世界の「きらきら星」

2025年12月6日（土）、東キャンパスでは

音楽をテーマにした交流が行われました。参加した子どもたちは身近な材料で自分だけのオリジナル楽器を制作した後、アメリカ、中国、ポリビアなど、多様な国籍の在学学生たちとの合奏を楽しみました。日本語だけでなく、それぞれの母国語で歌われる「きらきら星」に合わせて、自作の楽器を鳴らすひととき。そこには語学の壁を越えた「音でつながる喜び」が溢れていました。



#### 本事業の「教育的価値」

本学が地域や多国籍の学生と共に、こうした活動を継続している背景には、以下の教育的メリットがあります。

- 「伝える力」の醸成：専門知識を子どもや異文化の人に分かりやすく伝える経験は、将来の社会人としてのコミュニケーション能力を飛躍的に高めます。
- キャンパスの多文化共生：日常的に多様なルーツを持つ学生と協働することで、グローバルな視野が自然と身につきます。
- 自己肯定感の向上：地域貢献を通じて「自分の技術が誰かを笑顔にする」ことを実感し、創作活動への自信を深めます。

名古屋芸術大学は、キャンパスを閉じた空間にせず、地域と世界に開かれた「生きた学びの場」として、これからも学生たちの多角的な成長を支援してまいります。

## 実施報告

# 後援会補助公開講座

## 芸術学部芸術学科舞台芸術領域

舞台芸術作品を制作する人材を育成することを目的として、舞台プロデュースコース、演出空間コース、(音響・照明)、舞台美術コースの3コースを包含した舞台芸術領域は、2025年度に5年目を迎えました。3コースが卒業時まで協働で学ぶという特徴を有している舞台芸術領域では、専門性を極めると同時に、自己主張と他者理解のバランスをとりながら公演制作を重ねます。開拓者として走ってきた一期生の背中を見てきた後輩たちが、先輩の切り拓いた地平の向こうを見るべく懸命に学びに取り組んでいる姿をご報告いたします。

今年度を迎えた新しい専任教員と助手は、学生たちの良き相談相手になりながら教育力を発揮してくれました。次年度は、さらに新しい非常勤講師と助手を迎える予定です。教員スタッフ一同、全力で領域運営に力を注いで参りますので、どうぞ今後ともご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。以下、後援会補助によって開催されたものをご紹介します。

(舞台芸術領域主任 梶田美香)

### ■ 2年生：演劇公演 横光利一原作「春は馬車に乗って」

1年生で舞台芸術に関わる全分野を学び、コース選択をした2年生たちの、初めての公演は演劇公演でした。舞台プロデュースコースが選んだ作品は、横光利一原作「春は馬車に乗って」。その意図は、大切な人について改めて考え直す機会にしたい、という思いでした。時代を超えて、年代を超えて、大切な人に想いを寄せたいという人間の根源的な願いに着目したこの作品において、ドラマが展開される小さな部屋を舞台美術コースが創作し、その中での時間経過と心理描写を演出空間コースが光と音で描きました。満席の



お客様にご覧いただくことができました。

### ■ 3年生：ダンス公演 ミヒャエル・エンデ原作「はてしない物語」

2年生で演劇公演を経験した3年生は、言葉のないコンテンポラリーダンス公演に挑戦しました。映画にもなったミヒャエル・エンデ原作「はてしない物語」は、“虚無”を乗り越えて自分の物語を獲得していくストーリーです。まるで懸命に青春を走り抜けようとしている学生たちと重なるような公演になりました。出演者を務めた3年生(舞台プロデュースコース)と共に創作した経験は、演者とスタッフの関係構築という貴重な機会として、いよいよ迎える来年度の卒業公演に生かされていくと期待されます。2年生公演と同様に、満席のお客様にご覧いただくことができました。



### ■ 特別客員教授によるシンポジウムとワークショップ

毎年大人気の特別客員教授によるシンポジウムとワークショップが、夏のオープンキャンパスで高校生向けに行われました。「舞台人」の歴史を直接聞き、経験を間近で伝授する高校生たちを、これからの舞台芸術領域の仲間として受け入れられるよう、より魅力的な領域にしていきたいと想いを新たにしました。



## 芸術学部芸術学科芸術教養領域

今年度も後援会の皆様のお陰様で無事、芸術教養領域の公開講座を開くことができました。ここに感謝申し上げます。

今年度はマンガ家で動画発信者としても大変ご活躍の山田玲司さんにお話し頂きました。『Bバージン』、『絶望に効くクスリ』などのマンガの代表作や、エッセイ・評論などの文筆活動のみならず、マンガ、アニメ、映画、音楽など幅広いテーマで語る動画も大人気です。

特に2024年1月に起きた人気マンガ家の自死事件を受け、里中満智子さん、森川ジョージさん、湊よりこさんを招いた座談会動画はマンガの作家、編集者、ファン、マンガを原作とするドラマや映画・アニメを作る人々、すべてに重要な示唆を与えるものです。

今回の公開講座では山田さんの配信動画内で行っているように「聞き手がいると助かる。その



真摯かつ「ゴキゲン」にお話しされる山田玲司さん

役を学生にしてはどうか」とご提案がありました。市民の方々にはもちろんのこと、学生にも山田さんのお話をしっかりと聞いてもらいたい、司会役だとその業務で頭がいっぱいになるかもしれない。そう考え、ポスターのメインビジュアルを作ってくれた学生が所属している文芸・ライティングコース(デザイン領域)の村田仁先生に聞き手役をお願いしました。急なお願いをお引き受けくださった村田先生にも御礼申し上げます。

公開講座はまだ残暑厳しい9月20日(土)の午後、西キャンパスのB大講義室で開催しました。遠方から山田さんの熱心なファンの方々がいらしてくださいました。芸術教養領域の学生はもちろん、マンガに関心のある学生や、マンガゼミを主宰されているナカノケン先生や谷川司先生も駆けつけてくださいました。



村田先生(左)の質問に山田さんが回答する形で話が展開

お話の前半は村田先生からの問いに山田さんが答える形で、後半は会場からの質問に山田さんが答えていく形で進みました。動画配信同様、山田さんのご配慮で「ゴキゲン」にお話が進み、残暑も和らぐような穏やかで朗らかなものでした。



山田さんの缶バッジ(手前)と芸術教養領域のパンフレット(奥)

山田さんはマンガ家を目指す学内外の若い人たちに、真摯かつ熱心に回答してくださいました。マンガ家以外の夢を持つ学生の問いにも非常に親切な励ましをくださいました。途中、立ち寄りられたキャンパス見学の方々も、山田さんの熱心なお話で「時間が無くて途中退席するのが残念だ」と惜しんで席を立たれました。



明るくお話しされる山田さんの右奥はデザイン領域の学生2名がコラボしたポスター

当日、ご入場の皆様に山田さんのWEBサイトに掲載されているお写真や画像を使用した缶バッジ



学生からの質問に朗らか且つ親切に回答する山田さん

をお配りしました。これも山田さんのご厚意で、学生が山田さんの著作権のある画像を使ってグッズを作って売っても良い、ということから始まった企画です。紙幅の限りがあるため詳しい経緯は省きますが、無料の記念缶バッジをお配りすることになりました。こちら、学外からお越しの山田さんファンには特に大好評でした。

缶バッジは山田さんが描かれたキャラクターのものを3種類、山田さんご自身のお写真と山田さんのサインのものを1種類ずつ、合計5種類を制作しました。最も人気だったのがお写真とサインの缶バッジでした。これは山田さんのお人柄に惹かれるファンが多いからこそでしょう。取り回しに当たったスタッフの私たちも山田さんの寛かなお人柄に救われた次第です。

芸術教養領域主任 茶谷 薫

# TOPICS



## 音楽 海を越えて響く音楽の絆 — 巡視船「みずほ」での特別演奏報告

2025年11月23日(日)、名古屋芸術大学ウィンドオーケストラは、海上保安庁による「令和7年度 第四管区総合訓練」に参加し、愛知・三重・岐阜の海域を守る海上保安業務の最前線を舞台に、巡視船「みずほ」の船内で特別な演奏活動を行いました。

当日は一般参加者が見守る中、放水やヘリコプター連携救助などの迫力ある訓練が展開されました。ウィンドオーケストラは、これら一連の進行に合わせて計4回の演奏を実施。乗船時には「宇宙戦艦ヤマト」など海にちなんだ楽曲で期待感を高め、航走中の船上では潮風を感じながら「タイタニックメドレー」などを披露しました。普段のホールとは異なる開放的な環境での演奏は、学生たちにとっても音楽の新たな魅力を発見する機会となりました。

船内ではマスコットキャラクター「うみまる」も登場し、海上保安庁の活動紹介が行われるなど、音楽と海がひとつに重なる温かな交流が続きました。フィナーレの「宝島」では、乗客からの手拍子が響き渡り、会場は一体感のある高揚感に包まれました。

今回の活動を通じ、学生たちは海上保安官の規律ある姿や細やかな心配りに触れ、「海を守る仕事」への理解を深めるとともに、公共の場において音楽が果たす役割を、身をもって体感し、地域社会との関わりの中で、表現者として大切な視点を獲得する貴重な一日となりました。



## 舞台芸術 地域の伝統をアートで蘇らせる — 「シシ祭 2025」開催報告

2025年11月2日(日)、名古屋市中川区のPALET.NUにて、本学舞台芸術領域の浅井信好准教授が総合ディレクションを務める「シシ祭 2025」が開催されました。本事業は大学・地域・行政が連携し、芸術の力で地域文化を再生・発信する重要な取り組みです。

「シシ祭」は、かつて中川地域で盛んだった獅子の練り歩き文化に着想を得た祭りです。会場には、時代の変化とともに使われなくなった地域内の獅子頭約100体がアート資源として並べられ、来場者からは「懐かしい」といった声上がるなど、失われつつあった伝統を現代に蘇らせる象徴的な展示となりました。

メインプログラムでは、浅井准教授が構成・振付を担当し、地元の子もたちと練習を重ねてきた「獅子踊り」を披露。子どもたちの躍動に合わせて獅子頭が覚醒し、一体となって舞う幻想的なパフォーマンスは、観客を圧倒する祝祭的な空間を創り出しました。続いて行われた伝統的な「菓子撒き」や、地域の女性会を中心とした「盆踊り」では、世代を超えて人々が一つになり、夜の中川運河に笑顔と音楽が溢れました。

地域住民からは「次世代にもこの祭りを続けてほしい」との期待が寄せられ、伝統をアートとして再構築する本試みは、文化を未来へつなぐ大きな意義を示し、芸術が「まちづくり」や「多世代交流」に果たす役割を実感する、本学ならではの社会連携の形となりました。



## 美術 地域を彩る想像力 — 豊橋市自然史博物館でのオブジェ制作報告

2025年7月6日(日)、美術領域の有志学生5名が、豊橋市自然史博物館で開催される企画展「エイリアンプラント・バスターズ」のPR用オブジェを制作・設置しました。このプロジェクトは、生態系を脅かす外来植物の駆除をテーマに、学生の自由な発想を地域貢献に活かす社会連携活動の一環です。

指導にあたった加藤真浩非常勤講師と学生たちは、当初の「石碑型」という依頼を超え、来場者が実際に乗って楽しめる「マシン型フォトブース」を考案。1年生を中心としたメンバーは、入学間もない時期ながら授業後の時間を活用し、実在の重機をリサーチするなどリアリティを追求しました。細部へのこだわりは凄まじく、制作途中で「子どもたちが喜ぶように」と可動式のレバーやライトを急遽追加。メカニカルな密度感と遊び心を兼ね備えた、近未来的なコックピットを完成させました。

設置当日、作品を目にした同館の吉川博章館長や稗田真也学芸員からは、「作り込みが素晴らしく驚いた。操作部分の要望も見事に実現されている」と高い評価をいただきました。地元出身の学生も参加しており、自身の故郷の文化施設に貢献できた喜びを噛み締めていました。

この取り組みは、学生にとって技術の向上だけでなく、学外のニーズを汲み取りチームで形にする実践力を磨く貴重な機会となりました。



## デザイン 未来を創るデザインの力 — 「次世代燃料マーク」提案プロジェクト報告

2025年10月13日(月)、デザイン領域カーデザインコースおよびインダストリアルデザインコースの学生が、久屋大通公園で開催されたフォーラムにて「次世代燃料マーク」のアイデアスケッチを発表しました。本イベントは、戦後80年を節目に自動車技術の進歩と未来を考えるもので、愛知県知事の大村秀章氏らも登壇する注目の場となりました。

プロジェクトには学生24名が参加し、学内での厳正な選考を経て選ばれた8名が壇上に立ちました。学生たちは、既存のガソリン車でも活用できるサステナブル燃料に着目。クラシックカーの美しい外観を損なわず、かつ環境への配慮を象徴するデザインを考案しました。「車のシルエットから葉が伸びる未来への繋がり」や「旧車に調和する落ち着いた色味」など、各自が歴史ある名車への敬意と、カーボンフリー社会への願いを込めた独自の視点を披露しました。

発表した学生からは、「過去と未来をつなぐ概念を形にする難しさと楽しさを学んだ」といった声も寄せられました。指導にあたる田中昭彦教授は、来年に向けてデザインをさらにブラッシュアップし、実際にマグネットステッカーとして配布するなど、具体的な展開も視野に入れておりと展望を述べました。

本プロジェクトは、学生が社会の最前線で自身のアイデアを直接発信する貴重な機会となりました。伝統ある自動車文化を守りつつ、デザイン力で持続可能な社会のシンボルを創り出す。そんな学生たちの創造的な挑戦に、今後も大きな期待が寄せられています。



## 芸術教養 学生がプロデュース！北名古屋市が誇る「地域回想法」を広めるイベント

芸術教養領域2年次の必修授業である「プロジェクト1・2」ではグループワークを行います。課題発見、解決のための企画立案とプレゼンテーション、その改善と実現を通じ、スケジュール管理や他者との協働などマネジメント力を身につけます。

学生は、北名古屋市が誇る地域回想法を子ども世代にも広く知って頂くイベントを考えました。5月、市の回想法センター・歴史民俗資料館(昭和日常博物館)の方々に案を口頭発表し、選んで頂きました。7月に上記両館や、「いきいき隊」の高齢者の方々に協力頂き、イベントを行いました。この反省を活

**TOPICS PICK UP!**

かした改善版を12月に行いました。

いずれも盛況で、リピーターもいらっしやいました。お客の子ども達や保護者の方々が、ゲームやアートワークを通じて地域回想法を楽しみながら知るわけです。学生が独自で考えたゲームの「回想法神経衰弱」は「自分たちもしたい」というオファーがあったほどです。また、学生の工夫を凝らしたスタンプラリーでは、ゴールで景品をお渡しすることで、回想法を強く印象付けるような工夫も行いました。

学生も様々なスキルを身につけ、グループワークや課題解決の意味を実感し、成長したと思います。

(授業担当：茶谷薫)



イベント協力者「いきいき隊」の方々に説明する学生



7月のイベントのチラシ。1年次の学びを活かし芸術教養生が作成



12月のイベントのチラシ。このチラシで「7月の続きですか!」と分かって頂けた



景品に貼ったシール。チラシを作った領域生が個々のアイテムを描き、配置は別の学生が行った。イベントを帰宅後思い出して頂く工夫

**教育** スポーツを通じて多様性を学ぶ：ちびっこチャレンジカップ

2026年1月24日(土)・25日(日)、中部国際空港で開催された「ちびっこチャレンジカップ」に、教育学部子ども学科の学生たちが参加しました。会場では本学おなじみの「デジタルバッティングセンター」に加え、現役選手協力のもと「ブラインドサッカー」と「ブラインドラグビー」の体験ブースを展開。

学生たちは、運営上の課題にも臨機応変に対応し、多くの子どもたちを力強くサポートしました。特に弱視ゴーグルを用いた体験では、見え方の違いに驚きつつも順応していく子どもたちの姿が見られ、スポーツを通じたインクルーシブ教育の実践の場となりました。将来、教育者を志す学生にとって、多様性への理解と柔軟な指導力を養う、貴重な社会連携の機会となりました。



**別科** 秋の京都で育む異文化交流：世界遺産を巡る社会見学

2025年11月22日(土)、留学生別科による社会見学を実施し、教育学部の学生と共に秋の京都を訪れました。本研修の目的は、混成グループで世界遺産を巡り、自らチケット購入やルート選定を行う「実践的な文化交流」です。

当日は記録的な混雑と交通渋滞に見舞われましたが、学生たちは臨機応変に協力し合い、嵐山の美しい紅葉を堪能しました。特に金閣寺の神々しい景観には留学生から感嘆の声が上がり、日本の美意識に直接触れる貴重な機会となりました。予期せぬ状況下での交流を通じて、互いの文化を尊重し、言葉の壁を越えた絆を深める一日となりました。



## 寄附事業 「名古屋芸大サポーターズクラブ」 便り

学校法人名古屋自由学院が設置する名古屋芸術大学は、1970年(昭和45年)に開学し、これまでに多くの人材を世に送り出して参りました。卒業生・修了生は、芸術分野、教育分野をはじめ、さまざまな分野で活躍されており、その活躍の場は東海地区だけではなく、全国各地、さらには海外にも及んでいます。

今後も、このような多方面で活躍される有為な人材を輩出し続けるためには、学校法人の重要な使命でもある「教育・研究」並びに「学生支援活動」の更なる充実が不可欠です。学校法人名古屋自由学院のより一層の教育・研究活動、学生支援活動等の発展のため、日頃より応援していただいている皆様にご支援を賜っております。本学の学生へのご支援を心からお願い申し上げます。

### <寄附金の使途>

寄附金の使い道は、次の8の項目から選択いただけます。

- 1 在学生に対する奨学金
- 2 音楽活動支援事業(音楽領域・舞台芸術領域)
- 3 制作活動支援事業(美術領域・デザイン領域)
- 4 芸術的素養習熟支援事業(芸術教養領域)
- 5 子ども教育活動支援事業(教育学部)
- 6 キャリア支援事業
- 7 グローバルな学生を育成するための学生企画の支援
- 8 その他、学生支援の充実を図る事業

### <寄附者の顕彰>

ご寄附を賜りました方全員のご芳名を、名古屋芸術大学公式ホームページおよび本学広報誌「名古屋芸大グループ通信」に掲載し公表させていただきます。なお、ご芳名は希望により掲載しないことも可能です。

また、毎年度、本学院に対する寄附金の累計

額が50万円以上となった寄附者には、感謝状の贈呈等、別途個別に顕彰いたします。

### <お申し込み方法>

名古屋芸術大学公式ホームページ内「名古屋芸術大学 寄附事業」のバナーよりお申込みいただけます。

### サイトアドレス:

<https://www.nua.ac.jp/donation/>



こちらのQRコードからでもアクセスできます。

### <税法上の優遇措置>

#### 1 寄附者が個人の場合

「所得控除制度」と「税額控除制度」のいずれか有利な制度を選択いただけます。

また、個人住民税についても控除される場合がありますので、詳しくはお住まいの都道府県・市区町村にお問い合わせください。

#### 2. 寄附者が法人の場合

寄附金に対する損金算入の手続きには以下の2つの方法があり、いずれかを選択いただけます。

- ①特定公益増進法人に対する寄附金
- ②受配者指定寄付金

### <資料請求・お問い合わせ先>

〒481-8503

愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地

名古屋芸術大学 地域・社会連携部

社会貢献支援・ネットワークチーム

TEL: 0568-48-1550

E-Mail: info-kifu@nua.ac.jp

事務取扱 月～金 9:00～17:00

## 親の想い

### 良い出会いと縁に感謝

芸術学部 芸術学科

音楽領域 音楽総合コース

2年生 母 後藤 奈津江

娘が初めてトランペットを手にしたのは、小学4年生の部活動でした。中学では吹奏楽部、高校ではマーチングバンド部でずっとトランペットを吹いてきました。娘は決して要領の良いタイプではありません。その分誰よりも努力を重ねて今に至ります。その姿を傍で見守る中で、何よりもありがたいと思ったのは、良い指導者との出会いでした。音楽の楽しさを教えてくださり、娘の可能性を信じ、時に厳しく時に温かく導いてくださった恩師には、感謝しかありません。

また、共に音楽に励む仲間や支えてくださる方々との縁にも恵まれ、名古屋芸術大学へと導かれてきたように思います。大学に入学してから数々の演奏会やコンクールなど、娘の頑張る姿を見る機会が増えて、とても充実した大学生活を送れている様でほっとしています。

そんな娘が先日、成人式を迎えました。大好きなトランペットを手に名古屋城で写真撮影をしました。娘らしい良い写真が撮れたと思います。

娘がこれからも音楽を学べる事に感謝の心を忘れず、トランペットと真摯に向き合っていけるよう親としてサポートしていきたいと思っています。娘の成長を通して、私自身も良い出会いがたくさんありました。

これからも音楽の道へと前進していくであろう娘の一番の理解者として、一緒に成長していけたらと思います。



### 感謝の日々に寄せて

芸術学部 芸術学科

音楽領域 音楽総合コース

1年生 母 高野 千恵

息子が大学生となり1年次が修了しようとしています。中学から五月雨登校、不登校を経て、高校は定時制。入学当初は毎日登校できるか、単位が取れるかと心配していましたが、大学側からのきめ細かい支援や担当教授、クラスメイトのおかげで、現在は音楽総合コースで体系的に音楽を学び、毎日楽しく通っています。



この度、『親の想い』『子の想い』執筆にあたり、息子に「こんなコーナーがあるけど、寄稿してみる？」と聞いたところ、まさかの二つ返事で寄稿を決めるなど、彼なりの表現の幅が広がりつつあることに成長を感じています。

子が成長していくにあたり、我々親子は周りの方に恵まれていたと改めて感じています。息子の特性や人間性をそのまま受け入れて、認めて接してくれた方々のおかげで今があると、学校の先生方、かかりつけの先生、友人達など、今まで息子に関わってくださった方々には感謝してもきれません。

そんな周りの方々の温かさに支えられて、子どもも私も育つことができました。

この先、彼は様々な出来事を経験したり、不安や困難にあたることもあるでしょう。そんな時には出会った方々のことを思い出して、自分がたくさんの人に支えられていることを思い出してほしいと思っています。そして、いただいた恩を返せるように、じっくりと自分の人生と向き合って進路を決めていってほしいと願っています。

親として、彼の人生をこれからも見守って行けたら幸いです。

# 子の想い

## 挑戦の先にあるもの

教育学部 子ども学科

子ども支援コース

3年生 岡西 那々実

大学生活も折り返しを迎え、これまでを振り返ってみると、私は「挑戦すること」を大切に過ごしてきたように感じる。大学生活の中では、ボランティア活動への参加や実習に積極的に取り組んできた。慣れない環境に不安を感じることもあったが、新しいことに挑戦する中で、多くの学びや気づきを得ることができた。

特に実習では、実際に子どもと関わる中で、思うように声掛けができず悩む場面や、子どもの気持ちを上手く汲み取れず戸惑うこともあった。しかし、先生方から声の掛け方や関わり方、子どもの気持ちに寄り添う姿勢などを丁寧に教えていただき、教科書だけでは学べない実践的な学びを得ることができた。上手くいったことだけでなく、上手くいかなかった経験も含めて、一つ一つが自分の成長に繋がっていると感じている。

将来は、子どもに関わる仕事に就きたいと考えている。進路について迷うこともあるが、そのたびに家族や先生方が親身になって話を聞いてくださり、支えられていることを実感している。未熟な部分も多いが、学び続ける姿勢を大切に、一人一人の気持ちに寄り添い、温かく接することのできる保育者になることが目標である。今の自分にできることを大切にしながら努力を重ね、これまで支えてくれた家族や周囲の人への感謝の気持ちを忘れず、いつか恩返しができるように頑張っていきたい。



## 揺れながら進んだ一年

芸術学部 芸術学科

音楽領域 音楽総合コース

1年生 高野 敬也

大学生活の最初の一年が、ようやく終わった。授業や実技、課題に追われる毎日は想像以上に大変で、正直くじけそうになったこともあった。それでも一つも単位を落とすことなく、無事に二年生に進級できそうで胸をなでおろしている。

思い返せば、昨年の四月にこの大学に入学したときは不安でいっぱいだった。高校は週に一度だけ登校する通信制で、生活リズムも自由そのもの。そんな自分が、全日制の大学で毎朝ちゃんと起きられるのか、満員電車で耐えられるのか、人前で発表や実技をこなせるのか、心配の種しかなかった。

一年経った今も、朝はやっぱりつらいし、混雑した電車は慣れるどころか毎回ため息が出る。人前に立っても思うようにいかないことばかりで、成功体験よりも小さな失敗のほうが多い。それでも、一年を何事もなく修了することができたのは、親や先生方をはじめとする周囲の支えがあったからこそだと思う。

自分の学びたいことを学び続けられたこの一年は、私にとって非常に充実した時間だった。この一年で得た学びを活かして、今後も全力で学び続けたい。





# 名古屋芸術大学後援会会則

- 第1条 本会は名古屋芸術大学後援会(以下「本会」といふ)と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。
- 第2条 本会は名古屋芸術大学の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。  
(1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。  
(2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。  
(3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。
- 第4条 本会は名古屋芸術大学学生(大学院生を含む)の保護者または、これに代わる者及び理事会が認めた本学卒業生の保護者、並びに本会の趣旨に賛同する企業または事業主等(以下、「賛助会員」といふ。))をもって組織する。
- 第5条 本会に役員及び理事をおく。  
1 役員は、次の各号に掲げる者とする。  
(1) 会長1名  
(2) 副会長4名  
(3) 監事1名  
(4) 会計監査2名  
(5) 書記1名  
(6) 会計1名  
2 本会に理事若干名を置く。
- 第6条 本会の役員及び理事の選出は次の方法による。  
(1) 役員は総会において会員の中から選出する。  
(2) 書記、会計は役員の中から会長が委嘱する。  
(3) 役員の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。  
2 理事の選出は、理事会において会員の中から選出する。  
(1) 理事の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
- 第7条 本会役員の仕事は次のとおりとする。  
(1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐し、会長が事故ある時はその代理をする。  
(2) 監事は会務を監査する。  
(3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。
- 第8条 本会の会議は総会、理事会とし、議長はその都度選出する。

- 第9条 定期総会は原則として年1回、会長が召集する。必要と認めた場合は臨時総会を開くことができる。
- 第10条 総会は次の事項を審議・決定する。  
(1) 事業の実施、収支決算及び予算に関する事。  
(2) 会則の改定、会の解散に関する事。  
(3) 役員の選出、その他役員が必要と認めた事項。
- 第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した過半数をもって議決する。
- 第12条 理事会は出席役員・理事で成立し、会長が召集、議事は出席役員・理事の過半数で議決する。理事会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。
- 第13条 本会にその目的を達成するために次の委員会をおく。また、必要に応じて理事会の承認を得て新たに委員会を設置することができる。  
(1) 総務委員会  
(2) 事業委員会  
(3) 広報委員会
- 第14条 委員会に委員長1名、副委員長2名以内および委員若干名をおく。  
委員長は副会長が兼務し、副委員長及び委員は理事のうちから理事会の同意を得て会長が指名する。
- 第15条 本会に顧問をおくことができる。顧問は理事会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。
- 第16条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降大学院生までは年額10,000円とする。賛助会員の会費は別途定める。
- 第17条 本会の会計年度は、4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第18条 本会則の運営に必要な事項は、理事会の議を経て会長が定める。
- 附則  
1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。  
2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し実施する。  
3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。  
4 本改正会則は平成25年5月19日から実施する。  
5 本改正会則は平成26年5月18日から実施する。  
6 本改正会則は令和2年7月5日から実施する。

## 後援会旅費規程(抜粋)

- (目的)  
第1条 本規程は、名古屋芸術大学後援会の役員、理事および会員の用務出張に要する旅費に関する事項を定める。  
(旅費の種類)  
第2条 旅費の種類は、鉄道賃、車賃、船賃、航空賃、目当および宿泊料とする。  
(旅費の経路と計算)  
第3条 旅費は自宅または名古屋芸術大学を基点とし、一般的な最短経路によって計算する。ただし、用務の都合または天災その他やむを得ない理由で経路を経由し難い場合には、現に経過した路線によって計算する。  
(以下省略)  
附則:この規程は、令和2年7月5日から施行する。

## 後援会表彰規程(抜粋)

- (目的)  
第2条 この規程は、後援会表彰を公正かつ円滑に行うとともに、後援会員(顧問含む)、学生、教職員の功績をたたえることで、後援会活動に対する意欲向上、士気の高揚および後援会事業の改革・発展を促すことを目的とする。  
(選考基準)  
第4条 後援会員、学生または教職員の個人あるいはグループが次の各号の一つに該当するときは、これを表彰する。  
(1) 後援会活動に誠実で、特に他の会員の模範となるとき  
(2) 永年にわたり後援会活動への貢献が顕著なとき  
(3) 学業成績が著しく優れ、または各種コンテストで上位入賞したとき  
(4) 国家的・社会的功績があり、後援会および大学の名誉となるような行為があったとき  
(5) その他前各号に準ずる行為または功績があり表彰すべきであると認められた場合 (以下省略)  
附則:この規程は令和2年7月5日から実施する。

## 名古屋芸術大学後援会 顧問の委嘱に関する内規

- 名古屋芸術大学後援会の顧問は、原則として、理事会の承認に基づき会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
  - 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
  - この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し理事会の承認を得るものとする。
- 附則:この内規は平成17年4月1日から適用する。  
附則:本改正内規は令和2年7月5日から適用する。

## 名古屋芸術大学後援会 弔慰に関する内規

- 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金10,000円を給付する。
  - 保護者(父・母)が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金10,000円を給付する。
  - 役員および理事の2親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、弔慰金として10,000円を給付する。
  - 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
  - この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し理事会に事後報告する。
- 附則1. この内規は慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。  
附則2. (略)。 附則3. この改正内規は、令和2年7月5日より施行する。

## 名古屋芸術大学後援会 公認サークル活動補助に関する内規

- 名古屋芸術大学後援会公認サークルである、「絵画グループ『壁の華』」及び「せせらぎ合唱団」の活動を活性化させるため、活動補助に関する事項を定める。
  - 通常のサークル活動における講師への謝金(交通費等を含む)は、サークルが徴収する会員からの月会費で賄うため、補助には含まない。
  - 学内外の会場で発表会等の活動を開催する場合に必要な会場レンタル費、運搬費、演出用品購入費、賛助への費用、及びこれらに準ずる費用等の一部について、これを給付する。
  - 緊急を要する場合あるいはこの内規で処理できない場合は、会長判断により執行した後、理事会に事後報告するものとする。
- 附則:この内規は、令和4年5月22日より施行する。

## アートサークル「壁の華」会員募集

「壁の華」はアートを愛するサークルです。

絵画からアクセサリーを名古屋芸術大学の講師に学び、日展・二科展・各美術展にて高評価を頂いています。

「壁の華」の活動内容はホームページに記載しています。

是非、ご覧ください。

各種お問い合わせは、ホームページの連絡先よりお願いいたします。



### 【活動状況】

- 年会費：12,000円
- 日 時：絵画、工芸、随時連絡
- 開催場所：西キャンパス、その他



スケッチ会

#### 問い合わせ先

会 長 石黒 和広  
 運営委員長 余吾 めぐみ・金澤 和重  
 e-mail : kabehohana.nua@gmail.com



## 「せせらぎ合唱団」団員募集

せせらぎ合唱団は、名古屋芸術大学後援会公認の合唱サークルです。

「みんなで歌って楽しもう」と在校生や卒業生の保護者が集まり1998年から活動しています。

「せせらぎ」とは、小川の流れやその音のことです。一人の声は小さいですが、仲間の声を聴き合わせると、素晴らしいハーモニーになります。

主に歌っているのは、皆様も聞き覚えのある日本語の曲ですが、なかには江端先生の編曲で「せせらぎオリジナル」にして歌ったりしています。

声を出すことで健康と楽しさを実感できるこのサークルへ、ぜひ参加してください。皆様のご参加、お待ちしております。



### 【練習日】

毎月第3土曜日の午後1時から  
2時30分まで

### 【場 所】

主に東キャンパス4号館の3階の  
多目的ホール

### 【年会費】

12,000円

### 【指導者】

本校の卒業生である山田正文先生と江端智哉先生により、発声の仕方から各パートの音取りを丁寧にご指導いただいています。

### 【活動内容】

芸大祭、NUA フィルハーモニー管弦楽団「第九」演奏会参加等。

#### 問い合わせ先

会 長 平井 友明  
 副会長 近藤 結花  
 e-mail : jhonsunuputi38@gmail.com





学生支援活動：東キャンパス



学生支援活動：西キャンパス

### 【表紙解説】

記念すべき第80号の節目を飾る今号の表紙は、名古屋芸術大学の特色である「総合芸術」をテーマに構成いたしました。キャンパスを彩るパレットと、その上を軽やかに流れる音符のモチーフを融合させることで、音楽と美術が共鳴し合う本学ならではの豊かな学びの場を象徴しております。

全体を柔らかな水彩調の色彩でまとめることで、大切なお子様の成長を温かく包み込む保護者の皆様の「見守る眼差し」を表現いたしました。親しみやすいデザインを通して、学生支援や研修報告といった各特集記事へ皆様を心地よく誘います。80号という長きにわたる歴史に深い敬意を捧げつつ、学生たちの瑞々しい感性を未来へと繋ぐ願いを込めて制作いたしました。

副会長(事業委員長) 山下 文彰

### 【後援会で一緒に活動しませんか】

日頃より名古屋芸術大学後援会へのご理解、ご協力を賜りありがとうございます。

後援会は、名古屋芸術大学の目的と教育方針に基づき、学生の福利厚生と大学の教育研究活動への各種支援活動を行っている在学生の保護者の会です。

後援会のお子様方に充実した学生生活をお送りいただくとともに、保護者の親睦交流を図る研修、後援会報の発行、会員のための絵画とコーラスのサークルなど、みんなで楽しく活動しています。

後援会では、いっしょに活動していただける仲間を募集しております。どうぞお気軽にお問い合わせください。

【お問い合わせ先】  
名古屋芸術大学後援会  
e-mail : kouenkai@nua.ac.jp

副会長(総務委員長) 村瀬 裕子

### 【編集後記】

はじめに「名古屋芸術大学後援会報第80号」の発行にあたり、ご尽力を賜りました関係者各位に心より感謝を申し上げます。

表紙は事業委員長の山下文彰様が提案してくださいました。春の訪れを感じさせる柔らかな水彩調の色彩で心が温かくなるようなデザインです。

今年度も広報委員の皆で和気あいあいと意見交換しながら編集会議を行いました。後援会でこのような素敵な仲間に出会えたことはかけがえのない思い出です。

これからもご支援とご協力のほど、よろしくお願いいたします。

副会長(広報委員長) 木俣 清子

## 後援会賛助会員紹介

名古屋芸術大学グループに学ぶ学生・園児のためのよりよい教育・研究の環境づくりを支援  
地域との共生を通して名古屋芸術大学グループ全体の発展に貢献



CREARE

### 株式会社クレアーレ 名古屋芸大グループ

〒481-0006 愛知県北名古屋市熊之庄古井 281  
名古屋芸術大学東キャンパス 12号館 6階  
TEL(0568)26-3355 FAX(0568)26-2101

- 大学内図書館の運営
- 自動車教習所連携
- 損害保険の代理店
- 音楽教室
- 大学施設の貸出業務
- 各種カルチャースクール
- 袴レンタル
- 学生生活支援(家電販売・Wi-Fiレンタル・住居斡旋など)



【本社・演奏事業部】



【名古屋音楽学校】



【名芸クリエイツ滝子】



## デザインから印刷・製本までトータルでお任せ！！

総合印刷

- ・チラシ・名刺・はがき・伝票・パンフレット・カタログ
- ・ポスター・自費出版・製本・企画・デザインetc...

## 有限会社 住吉孔版社

三重県四日市市住吉町 6-8

TEL 059-365-1924

FAX 059-364-2950

info@sumiyoshikouhan.co.jp

http://www.sumiyoshikouhan.co.jp

### 名古屋芸術大学後援会報 第78号

- 発行日 令和7年(2025年)3月31日
- 発行人 恒川 和久
- 編集 名古屋芸術大学後援会広報委員会  
(木俣 清子、中野 美樹、大橋 美佳、立石 恵美、  
西脇 綾子、加藤 美幸、後藤 奈津江、菱田 純子、  
松浦 美帆)

- 発行所 名古屋芸術大学後援会  
〒481-0006  
愛知県北名古屋市熊之庄古井 281 番地  
名古屋芸術大学(東キャンパス)12号館6階  
tel: 0568-26-3355 fax: 0568-26-2101  
e-mail: kouenkai@nua.ac.jp
- 印刷所 有限会社 住吉孔版社

【無断転載禁止】

本誌掲載の記事(表紙、本文、図表、写真、イラスト等)を本会及び著作権者の承諾なしに無断で転載(翻訳、複写、データベースへの入力、インターネットでの掲載等)することを禁じます。

# 名古屋芸術大学後援会

NAGOYA UNIVERSITY OF THE ARTS SUPPORT SOCIETY